

平成 26 年度 事業報告書

(平成 26 年 4 月 1 日から 27 年 3 月 31 日まで)

学校法人 羽衣学園

目 次

I はじめに	1 頁
II 学校法人の概要	1 頁
1 「建学の精神」と「ミッション・ビジョン」	1 頁
2 学校法人の沿革	2、3 頁
3 設置する学校、学部、学科、コース、専攻等	4 頁
4 学生・生徒数の状況	5 頁
5 役員・教職員数	6 頁
III 事業の概要	7 頁
(羽衣国際大学部門)	7～30 頁
(羽衣学園中学校・高等学校部門)	31～33 頁
(羽衣学園 法人事務局部門)	34、35 頁
IV 財務の概要	36 頁
1 平成26年度資金収支	36 頁
2 資金収支の推移	36、37 頁
3 平成26年度消費収支	37、38 頁
4 消費収支の推移	38 頁
5 消費収支 収入・支出内訳	39 頁
6 消費収支関連計数推移	40 頁
7 貸借対照表 計数推移	41 頁
(1) 貸借対照表 主要増減要因	42 頁
8 主要財務指標推移	43 頁
V 決算後に生じた重要事項	44 頁
VI 今後の課題	44 頁

I はじめに

学校法人羽衣学園は、中学・高等学校部門、大学部門において、建学の精神のもと、学生・生徒の教育、研究、地域貢献の充実に取り組んで参りました。

学生生徒募集については、平成26年度、男女共学2年目となる中高部門においては中学63名、高校454名の入学者数となり、高校部門については前年比大幅な増加となりました。一方大学部門においては1年次206名、3年次編入24名となり、1年次の入学者数は、過去5年間で最高であった昨年と比較して大幅な減少となりました。

大学部門については、年度ごとの入学者数の差異と、学科ごとの定員充足率のばらつきが大きいことから、新中期計画(平成27年度～平成31年度)において、食物栄養学科以外の学科は、学部・学科再編を含む教学のさらなる魅力化を加速化させるべく学長のリーダーシップの下、新中期策定委員会で集中的な議論を行い、次年度から具体的諸施策を実行することとなっています。

中学校・高等学校では、耐震リニューアル工事を実施する中で、2084㎡という小さな規模ではありますが羽衣学園6年間の総仕上げの教育を行う3階建ての校舎建設を行いました。中学生には教室に居ながらの工事となりましたが、教職員の気配りのもと、事故なく安全に改修工事を終えられました。直接工事にあつた清水建設(株)や設計管理をお願いした(株)日建設の担当者の方々にはこの場をお借りして心から感謝申し上げます。

本年度も中高・大学においては、補助金獲得について数多くチャレンジ願い、多大な成果を得ました。

私学を取巻く環境は年追うごとに厳しくなりますが、理事会と教職員が互いに羽衣学園の現状を共有し、努力を惜しまず、大阪南部に欠かせない学園と認められ、信頼される学園となることを目指して参ります。

II 学校法人の概要

1 「建学の精神」と「ミッション・ビジョン」

当学園の「建学の精神」と「ミッション・ビジョン」につきましては以下の通りです。

建学の精神	
	「愛真教育」を基盤とした「自由・自主・自律・個性尊重の人間教育」を通して、社会に有為な人材を育成する。
学園のミッション	
	私たちの学園は、自由・自主・自律を尊び、個性を重んじ、豊かな知と健やかな心を育てる人間教育を羽衣マインドとして、人々の幸福と社会の発展に貢献します。
学園のビジョン	
	— Be the One … — “時代を学び、時代をつかみ、時代を作れ！” 私たちの学園は、羽衣マインドを持ち、力強く未来に歩む人材を育成し、学園を広く社会に開放して、信頼され、評価を得る教育機関であり続けます。

2 学校法人の沿革

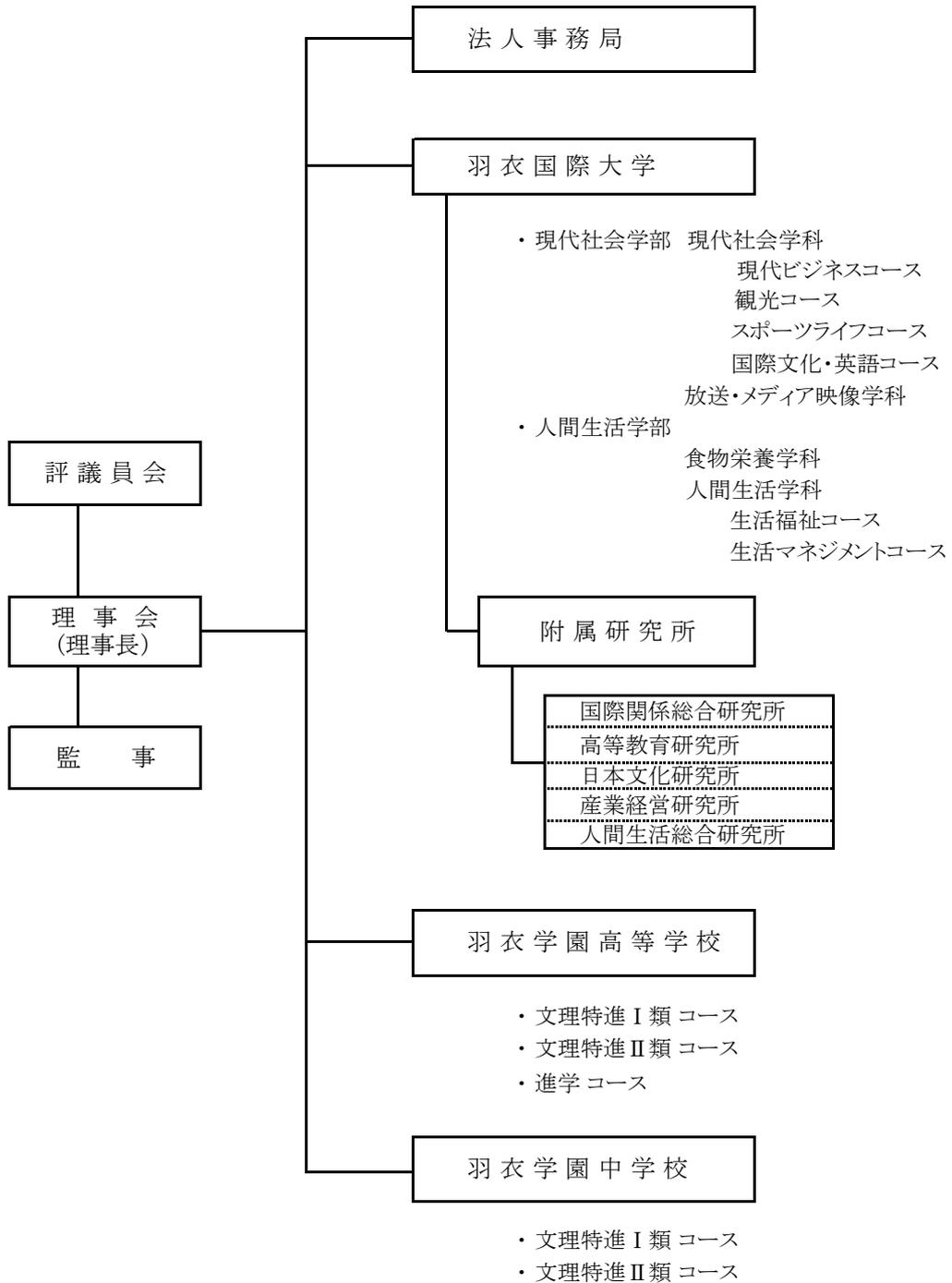
年 月 日	法 人 の 沿 革 (概 要)
大正12年 4月	羽衣高等女学校 開校
昭和15年11月	財団法人 羽衣学園を設立
22年 4月	新制 羽衣学園中学校 開校
23年 4月	新制 羽衣学園高等学校 開校
26年 3月	学校法人 羽衣学園に組織変更
39年 4月	羽衣学園短期大学 開学
44年 4月	短期大学学科名を 文学科、家政学科に変更
55年 4月	高校 英数コース開設
58年 4月	短大 家政学科を被服、食物専攻に分離
61年 4月	短大 家政学科家庭経営専攻設置
平成 6年 4月	短大 家政学科被服専攻を服飾デザイン専攻に変更
8年 4月	短大 国際教養学科開設
	高校 標準コースを文理コースに変更
9年 4月	中学 英数コース開設
11年 4月	短大 家政学科を人間生活学科、国際教養学科を国際コミュニケーション学科に変更
12年 4月	高校 国際コース開設
13年 4月	高校 英数コースを特進コース、文理コースを標準コースに変更
14年 4月	羽衣国際大学 産業社会学部 産業ビジネス学科開設 (短大 文学科、国際コミュニケーション学科 学生募集停止 ⇒ 15年度 学科廃止)
17年 4月	羽衣国際大学 人間生活学部 人間生活学科 設置 食物栄養・介護福祉・生活マネジメントの 3専攻 (短大 人間生活学科 学生募集停止)
	高校 特進コースを国公立進学コース、国際コースを国際文科コース、標準コースを総合進学コースに変更
	中学 特進コースをスーパー特進コース、標準コースを総合進学コースに変更
18年 4月	羽衣国際大学 産業社会学部 産業ビジネス学科を以下の2学科体制に変更 放送・メディア映像学科 キャリアデザイン学科 ビジネスマネジメント・観光マネジメントの 2コース
18年 9月	羽衣学園短期大学 廃止
19年11月	内部監査室設置
20年 4月	高校 国公立進学コースをスーパー特進コースに変更

年 月 日	法 人 の 沿 革 (概 要)
23年1月	大学 人間生活学部 人間生活学科生活福祉コース教員免許課程(高等学校一種 福祉)認定
23年4月	大学 産業社会学部の学部・学科の名称変更と定員変更 産業社会学部 → 現代社会学部 キャリアデザイン学科(入学定員130名) → 現代社会学科(入学定員95名・3年次編入20名) 放送メディア・映像学科(入学定員70名) → 放送メディア・映像学科(入学定員55名) 大学 人間生活学部、食物栄養専攻の学科独立と定員変更 人間生活学部 食物栄養専攻(入学定員80名) → 食物栄養学科(入学定員70名・3年次編入15名) 介護福祉専攻(入学定員40名)・生活マネジメント専攻(入学定員50名) → 人間生活学科(入学定員60名)に生活福祉コースと生活マネジメントコースを設置
24年2月	大学 現代社会学部 放送・メディア映像学科教員免許過程(高等学校一種 情報)認定
24年3月	大学 産業社会学部 産業ビジネス学科廃止
25年1月	大学 現代社会学部 現代社会学科教員免許課程(高等学校一種 公民)認定
25年4月	高等学校・中学校男女共学 高等学校 スーパー特別進学コース、総合進学コース → 文理特進Ⅰ類コース、文理特進Ⅱ類コース、進学コースに変更 中学校 スーパー特進コース、総合進学コース → 文理特進Ⅰ・Ⅱ類コースに変更

3 設置する学校、学部、学科、コース、専攻等

学園組織図

(平成26年度)



4 学生・生徒数の状況

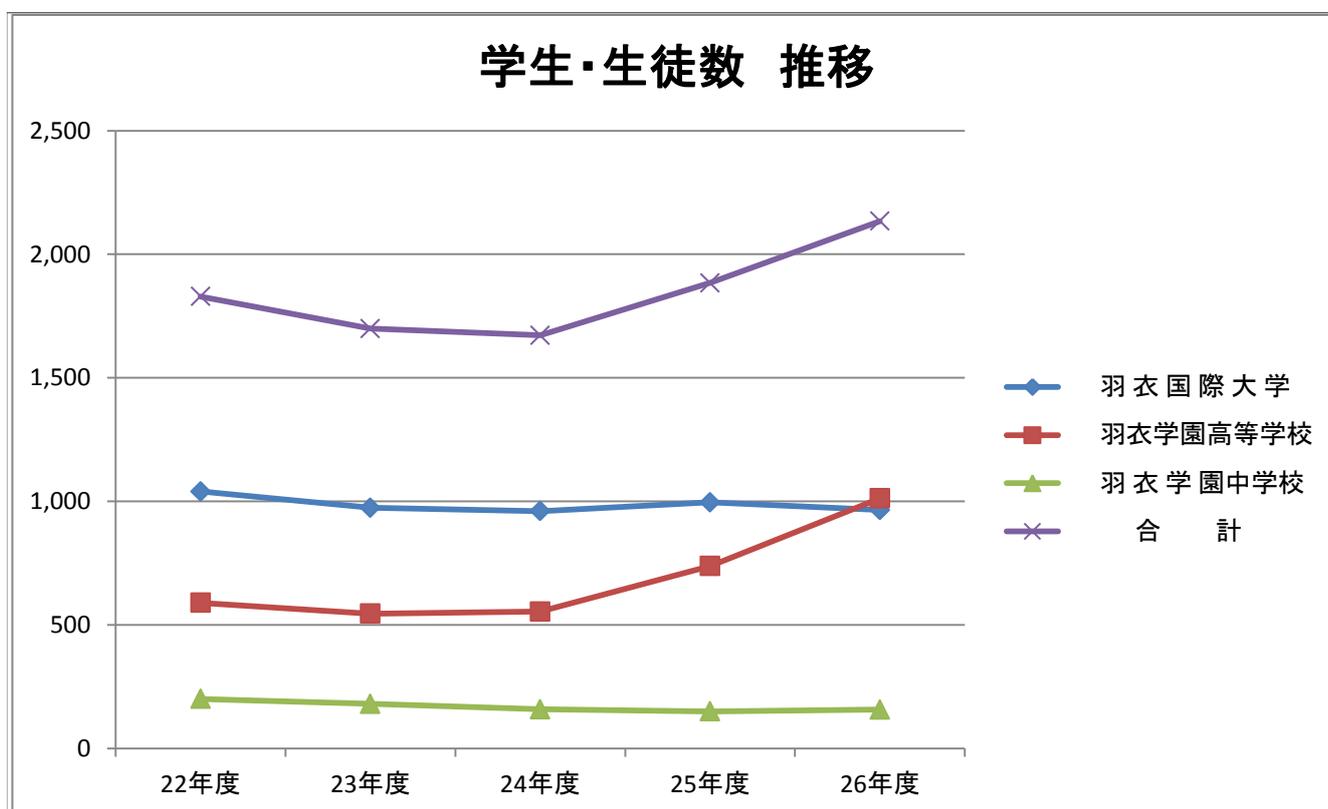
(1) 学生・生徒数

(単位 人)

学 校 名	平成25・5・1現在	平成26・5・1現在	26年度入学定員	26年度入学者数	説明事項
羽衣国際大学	996	965	280	206	
現代社会学部	494	462	150	89	
人間生活学部	502	503	130	117	
羽衣学園高等学校	738	1,012	260	454	
羽衣学園中学校	150	157	60	63	
高校・中学 計	888	1,169	320	517	
合 計	1,884	2,134	600	723	

(2) 学生・生徒数推移

過去5年間の学生・生徒数推移は以下の通りです(基準日 各年度 5月1日)



(単位 人)

学 校 名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
羽衣国際大学	1,040	974	960	996	965
羽衣学園高等学校	589	545	554	738	1,012
羽衣学園中学校	200	180	158	150	157
合 計	1,829	1,699	1,672	1,884	2,134

役員・教職員数（平成26年5月1日現在）

(1) 役員

(単位：人)

役職名	役員数	内常勤	内非常勤
理事	11 (内理事長 1)	5	6 (内理事長 1)
監事	3	0	3
評議員	24	-	24 (内法人職員 10)

(2) 教員

・羽衣国際大学

(単位：人)

学部名	専任教員				兼務教員 (内客員教授)	合計
	教授	准教授	講師	助教		
現代社会学部 (旧産業社会学部)	12	8	2	0	51 (5)	73
人間生活学部	11	12	2	0	50 (0)	75
計	23	20	4	0	101 (5)	148

・羽衣学園中学校・高等学校

(単位：人)

学校名	本務教員				兼務教員	合計
	専任	准専任	常勤講師	特別講師		
羽衣学園高等学校	27		18	1	24	70
羽衣学園中学校	8		7	0	3	18
計	35	0	25	1	27	88

(3) 職員

(単位：人)

学校名	本務職員					兼務職員	合計
	専任	常勤事務	特別嘱託	嘱託	実習助手		
学校法人	3		1	1			5
羽衣国際大学	34		2	4		7	47
羽衣学園高等学校	5	4		1	4	4	18
羽衣学園中学校						5	5
計	42	4	3	6	4	16	75

III 事業実績

平成 26 年度の各学校部門における事業実績は以下の通りです。

(羽衣国際大学)

1. 建学の精神、使命・目的、人材養成目的、3つのポリシー

羽衣国際大学では、学園創立者の一人である島村育人先生の建学の精神を踏まえ、大学の使命・目的、人材養成目的、3つのポリシーを以下の通り定めています。

建学の精神、使命・目的、人材養成目的、3つのポリシー

建学の精神(大学の基本理念)

「愛真教育」を基盤とした「自由・自主・自律・個性尊重の人間教育」を通して、社会に有為な人材を育成する。

大学の使命・目的(教育ミッション)

これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成。

(キャッチフレーズ:「Be the One! かけがえのない存在たれ!」)

大学の人材養成に関する目的

社会、人間、地域について深く専門の学術を研究教授し、現代社会において必要とされる知識を授け、豊かな教養と優れた知見と技能を持ち、わが国と国際社会に貢献しうる有為の人材を育成し、もって社会の健全な発展に寄与することを目的とする。

入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)

本学は、学内外の学びを通して自分自身と真摯に向き合い、他者と協調しつつ、自らの可能性に挑戦し、将来に対して明確なビジョンを確立したいと思っている人を求めています。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)

本学は、学生の成長を人格的な成長を含む総合的人間力の向上と捉え、初年次教育の充実により一人ひとりの学生を把握・支援し、①主体的、積極的に行動する力、②課題を発見し、考え抜く力、③他者の意見に耳を傾け、協調してものごとを進める力を持った人材を養成します。このため、オンキャンパス教育における系統的な専門知識・技能の修得と、オフキャンパスにおける実践教育を通して、専門知識・技能の社会化をはかる教育課程を編成します。

学位授与の方針(ディプロマポリシー)

共生社会において、自ら「かけがえのない存在」であることを認識するとともに、学部を目指す専門知識・技能を身につけ、自分の将来について明確なビジョンと行動力を持ち、社会で信頼され活躍できる人間力の基盤を確立している人に学位が授与されます。

2. 事業の概況

【教学改革5ヶ年計画と平成26年度以降の教学改革について】

羽衣国際大学では、2学部体制が完成年度を迎えた平成21年度に、全学的議論を経て2学部4学科体制下における大学の教学上の使命・目的を、「これからの共生社会において、主体的に行動する実践的職業人の育成」と定め、この使命・目的を実現するための具体的行動計画となる5ヶ年の教学改革計画を策定し、平成22年度以降、年度ごとに重点課題に取り組んできました。

羽衣国際大学では、これまでの教学改革の中で、各学部・学科・コースの魅力化を図るとともに、小規模大学の持ち味を活かし「学生の成長度が最も高い大学」を目指し、カリキュラム改革、オフキャンパス教育の充実、アクティブラーニング化の推進、新しい資格課程や教職課程の設置など多様な取組に全学的、計画的にチャレンジしてきました。上記5ヶ年計画の最終年度にあたる平成25年度には、これまでの成果と課題を踏まえつつ、改革の実効性を高め、各種改革を加速化するため、文部科学省の「教育活性化設備整備事業補助金」の申請を行い、Web履修・GPAシステム・iPadの導入(事業額合計21,993,300円、補助額合計19,829,000円)が採択されました。平成26年度には、さらに教学改革を加速化すべく私立大学等改革総合支援事業に関連して前年度に引き続き「教育活性化設備整備事業補助金」のすべてのタイプ(1～4)に申請を行い、タイプ1「教育の質的転換」(レストランのアクティブラーニング化改修)、タイプ2「地域発展」(地域連携のための図書館施設の整備)、タイプ4「グローバル化」(語学教育強化のための教室設備什器等整備)の合計3つのタイプで採択されました(事業額合計29,187,396円、補助額合計24,686,000円)。

また、今後の中期的な教学改革の方向性を議論するため、昨年度に引き続き、学長をリーダーとする新・教学改革プロジェクトチームにおいて、①さらなる教学上の魅力化を図るための既存学部・学科等の抜本的改編、②新教学領域への挑戦について審議・検討いたしました。同プロジェクトにおいて策定され、教授会等で合意を得た提案について、平成26年7月、理事長及び理事会の所見が示されたことを受けて、平成26年12月に新中期計画策定委員会が編成されました。同委員会は、本学が置かれている現在の外部環境、これまでの改革の進捗状況を確認・評価し、今後5ヶ年で取り組むべき重点課題について審議し、次年度前半に理事会に提案する予定となっています。

【教学改革の進捗状況 —全学的学修支援の取り組み—】

羽衣国際大学では、教学上の使命・目的を実現するため、上記5ヶ年計画で、「総合キャリア教育の充実」を教学改革の柱とし、各学科カリキュラムを中心とするオンキャンパス学修(知識・技能の修得)とインターンシップ、ボランティア活動、海外研修、各種学外実習などのオフキャンパス学修(知識・技能の実践)を段階的に連動させることで、学生の主体的に学ぶ力を引き出し、実践的職業人となるための基盤づくり注力してきました。

平成24年度に採択された文部科学省の競争的補助金事業「オンとオフによるアクティブラーニング型学修の全学的推進」によるポートフォリオシステム(‘HAGO フォリオ’)は平成25年度に本格稼働し、本年度も全学部、全学年の学生が Semester ごとに学修計画を立て学修成果を振り返る BE the ONE シートを中心に、全ての履修登録科目について Web 上で担当教員との課題のやり取りや情報共有、学修上のアドバイス等を可能とするシステムの運用が行われています。特に BE the ONE シートは、ゼミ担当教員、クラスアドバイザーのほか学修支援に関わる職員が各種関連情報の提供や励まし、アドバイスを行うものとなっており、小規模大学ならではのきめ細かい学修支援のツールとして活用されています。

また、前年度から引き続き、正課授業科目におけるリメディアル教育の推進として、特に日本語による情報収集力、コミュニケーション力、発信力を強化するため、全学的プレゼン大会が企画され、各学科の

協力、指導の下、代表チームによる第3回全学プレゼン大会が平成27年2月4日(水)に実施されました。全学プレゼン大会は、今後も改善を図りつつ継続実施する予定となっています。

私立大学教育研究活性化設備整備補助金を得て、学生食堂・カフェテリアを自学自習及びアクティブラーニングのためのスペースとして整備しました。これは、朝(授業前)の時間帯を利用した学習活動(「朝活」)及び夕方(授業後)の時間帯を利用した学習活動(「夕活」)を支援し、授業外学習時間の増大を図ることを目的としています。授業外学習時間の増大する仕組みを作るために、12月から「朝活・夕活・応援プロジェクト」を立ち上げ、「授業外学習時間調査」「朝食に関するアンケート実施」などを行いました。

【**教学充実の取り組み 一概況一**】

○ゼミ担当、クラスアドバイザー制

各学部学科においては、従来の取り組みを踏まえつつ、小規模大学のメリットを最大限に活かしたきめ細かい学生学修支援を行い、それぞれの人材養成目的に沿った専門教育の充実と、各種資格取得支援、入学前・初年次導入教育の充実を図ってきました。学生への個別支援は、現代社会学部ではゼミ担当教員、人間生活学部ではクラスアドバイザーが中心となって、必要に応じて担当事務局とも連携しながら、一人ひとりの学生と対面によるきめ細かい学修支援、助言を四年間通して行なっています。昨年度から導入されたポートフォリオシステムも学生との個別コミュニケーションツールとして活用されています。

○オフキャンパス学修

キャンパス外での学修機会は、学生の人格的成長を促し、社会で必要される主体的に行動する力、課題を発見し粘り強く考え抜く力、他者と協調して物事を進める力を育成する機会であり、事前事後学修を含め、従来から実践的職業人の育成に不可欠な学修機会と位置づけています。インターンシップ、海外研修などには従来から注力してきましたが、近年地域との連携による各種ボランティア活動が活発となってきています。平成25年度には、地元自治体(堺市西区)、地元産業界(大阪府中小企業家同友会及び一般社団法人関西産業活性協議会)と新たな連携教育を推進するため基本連携協定が締結され、本年度から具体的な連携事業が始まりました。

○資格・免許

資格養成課程については、食物栄養学科において、入学前、低学年時からの系統的学修支援の結果、平成26年度の管理栄養士国家試験において合格率が100%となりました。

卒業と同時に授与される資格免許については、栄養士84名(人間生活学科食物栄養専攻)、介護福祉士6名(人間生活学科介護福祉専攻)、栄養教諭一種免許状(人間生活学科食物栄養専攻)8名、中学校・高等学校家庭科教諭一種免許状(人間生活学科生活マネジメント専攻)7名が免許状を取得いたしました。また、図書館司書資格については15名が、博物館学芸員資格は5名が資格を取得しました。

そのほか、各学科において専門の学びと関連した各種資格、検定資格の取得を支援し、販売士1級などの難関検定資格を含む多様な資格を取得しました。

○キャリア形成・就職支援

本学のキャリア形成支援は、1年次から3年次までの授業科目の中で、担当教員・キャリアセンターと連携し、3年次3月1日から始まる就職活動に向けた総合キャリア教育に取り組んでいます。4年次には、学内合同企業セミナー・学内採用選考会等の開催、未活動者の支援について、キャリア委員・ゼミ担当者・クラスアドバイザー・キャリアセンターカウンセラーが情報共有し、4年全学生対象のキャリア支援に取り組んでいます。

また、オフキャンパスの一つであるインターンシップについては、実社会で必要とされる社会人として、

自分に不足している部分を早い段階で気づき、在学期間中に補うため、参加者の低学年化を進めています。

今年度のインターンシップは66名の参加があり、受入実習先についてもそれぞれの学科・コースの特色を生かした企業への参加となっています。参加学生の低学年化（1・2年生）については、68.2%と昨年実績の3.5%UPとなっています。

今年度の就職支援の取組みについては、地域と連携した支援強化として、新卒応援ハローワーク相談会延べ5日間開催、堺市・ジョブカフェさかい主催合同企業説明会（帝塚山学院大学会場）へバスチャーターによる参加、大阪府中小企業家同友会主催の出前講座年間5回実施、厚生労働省大阪労働局による労働法制セミナー実施、堺市主催による「堺地域キャリア教育事業」の一環として、社会人基礎力講座・企業出前講座を実施しました。

平成26年度卒業生の就職決定率は、96.2%（留学生含む）と、昨年度に比べ2.5%UPとなっています。学科別では、放送・メディア映像学科91.7%、現代社会学科100.0%、食物栄養学科96.2%、人間生活学科92.6%となり、特に留学生については、就職希望者全員が就職先を確定したため、次年度の特定ビザ申請者は0人となったことから、全体の希望率、決定率が高くなっています。

ただ、昨年度実施された、在職確認及び求人開拓による企業訪問は、いまだ不十分であり、次年度の課題となります。

【学生募集の取り組み】

羽衣国際大学では、「学内外の学びを通して自分自身と真摯に向き合い、他者と協調しつつ、自らの可能性に挑戦し、将来に対して明確なビジョンを確立したいと思っている人」を入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）に掲げ、全学部・全学科で多様な入試を実施してきました。能力が高く意欲溢れる生徒に対しては入学金や授業料を免除する特待生入試も実施しています。本学の学生募集の基本方針は、教学内容と実績に基づく正攻法の学生募集です。大規模大学、中規模大学では埋没し、潜在能力が十分に発揮できない学生でも、本学なら四年間で変わる＝成長するきっかけを掴むことができます。学生一人ひとりへの目配りが徹底していることを具体的事例により効果的に伝えることが、本学の学生募集の基本です。

本年度の学生募集（1年次）については、前年度（平成26年4月）の入学者数が206名と過去5ヶ年で最も少なくなったことから、従来にない入試制度の導入を含めた抜本的な見直しを行うとともに、募集広報活動の早期化、徹底強化を図りました。その結果、平成27年4月の1年次入学者数は243名となり、前年比37名増ではあったものの、定員充足には至りませんでした（3年次編入学者数は35名定員に対して入学者数29名）。1年次入学定員（280名）に対する定員充足率は86.8%（3年次編入の定員充足率は82.9%）。18歳人口の減少や大学進学率が数年前から減少に転じていること、さらに中・大規模大学との学生獲得競争の激化などの外的環境に加え、本学の教学充実の諸政策が外的環境を跳ね返すところまで受験市場において評価を得ていないことが主な原因と考えています。次年度は、今年度の反省を踏まえ、高い就職決定率や管理栄養士国家試験100%合格など、本学の教育成果をより効果的に示すことを基本に学生募集活動全体を見直し、また、学生募集力の向上を追求しながら定員確保を目指します。

【地域貢献の取り組み】

開学時の設置趣旨に、地元の産業界のニーズに応える「実学主義」と「国際主義」を掲げた羽衣国際大学では、学則第1条に「地域社会から信頼される高等教育機関として、地域社会との連携を図り、産業、生活、文化を振興するための教育、カリキュラムの研究と開発を推進する」と定めています。

開学以来、インターンシップやボランティア等の地域との連携教育と、大学の知財を地元地域に還元する各種公開講座の開催、地元自治体や地元企業・各種団体との共同研究や地域活性化事業に積極的に取り組ん

できました。平成 26 年度も、一般公開講座、社会人講座、授業公開講座などで多くの地域住民の方々と学びの機会を共有したほか、各種記念講演会を開催し、本学の地域貢献の決意とあり方を広く地域住民の方々に理解していただく機会を設けました。大阪府下の中学生を対象とした「中学生サマー・セミナー」の開催や西区図書館との連携事業において本学の資産開放や留学生による市民との交流などで、幅広い年齢層とのつながりを育みました。

学生活動面でも地域貢献に力を入れ、地域から要請のあったボランティアについてはすべて学生を派遣しました。派遣者総数は延べ 160 名となりました。

地元自治体との連携協定については、泉大津市、高石市、堺市西区との包括連携協定に続き、和歌山県湯浅町と「大学のふるさと」協定を締結（平成 26 年 9 月 1 日調印）し、湯浅町の過疎対策・活性化のための学生活動を軸とした取り組みを 3 ヶ年計画で始動しました。協定は締結していないものの、京丹後奥大野区の活性化のための取り組みへは 2 年目を迎え、参加学科及び学生・教員数が増え、活動内容を拡充しました。

本学専任教員はそれぞれの研究専門分野を活かし、自治体（高石市、堺市、泉大津市、大阪市など）や企業、各種団体から委員委嘱のあった各種委員会等に積極的に参加いたしました。

産学連携分野では、昨年度、大阪府中小企業家同友会、関西産業活性協議会と本学の間で締結した協定に基づき、同友会会員によるキャリア形成授業、学内合同希企業説明会への参加、本学学生のインターンシップ派遣など、産学連携教育を進展させました。

本学が「第二のふるさと」と位置付ける和歌山県の本学の拠点「羽衣国際大学わかやまサテライト」では市民講座を充実させて開講、和歌山ジョブカフェなど地元団体と連携した在学生の和歌山地区での就職支援に取り組み、和歌山県や地元企業主催の各種事業へ参加しました。

4 月に申請した文部科学省の競争的補助金事業「地（知）の拠点整備事業」は採択されなかったものの、申請書の中で挙げた自治体との取り組みは可能な範囲で起動し始めています。

【国際交流】

大学の設置趣旨に「国際主義」を掲げてスタートした羽衣国際大学では、これまで多様な国と地域の高等教育機関と連携協定を締結し、多様な海外研修・交流プログラム（語学研修、文化交流、短期留学、海外インターンシップ等）の開発と、海外留学生の積極的受入れ（2+2 のダブルデグリー制度を含む）に取り組んできました。平成 27 年 3 月現在、9 か国 18 大学と連携協定を結んでいます。平成 26 年度は 46 名の学生が海外研修に参加したほか、海外協定校から 25 名の学生が日本研修に参加しました。また、138 名の留学生が本学で学んでいます。

【同一法人内の高大連携】

平成 24 年度に大きな進捗のあった同一法人内の高大連携（本学と羽衣学園中学校・高等学校）は、同一法人内高大連携優遇制度の周知が進みつつあり、羽衣学園中学校・高等学校の男女共学化に伴い、将来の中学 3 年間、高校 3 年間、大学 4 年間の 10 年間一貫教育を視野に入れた高校 3 年生を対象とする高大連携講座が定着しつつあります。今年度は高校 3 年生の在校生数が前年度とほぼ同数だった中、内部進学者数は 19 名に増加（昨年度は 15 名）しました。次年度は男女共学第一期生の卒業年度であり、高校 3 年生も前年度の約 2 倍となるため、高大連携プログラムの実効性を高めるとともに内部進学優遇制度の拡充等の施策により 40 名以上の内部進学を目指します。

【研究活動】

本学では優れた教育の展開に研究は不可欠あるとの観点から、専任教職員はそれぞれの専門分野における

研究に熱心に取り組んできました。研究に熱心に取り組む、実績を挙げている教員についての研究費の傾斜配分を平成 25 年度から導入し、本年度も引き続き実施しています。研究成果の発表は、本学の各学部の研究紀要のほか、各教員の所属する学会等で活発に行われています（平成 26 年度の個人研究については「研究活動まとめ」を作成の上公表する予定）

5 つの付置研究所については、本年度も主催する各種研究会や報告会が開催されました（詳細は後述）。

【FD・SD 活動】

FD・SD 活動については、各学部・学科や事務部局で日常的に行われている OJT 活動のほかに、全学的な研修機会として、全職員研修と全教職員研修が夏季に実施されました。また本学 FD 委員会が主催する研修会（夏季及び春季の 2 回）、南大阪地域大学コンソーシアムが主催する FD/SD 研修会などが開催され多数の教職員が参加しました。

なお、職員については、文部科学省の公募補助金「未来経営戦略推進経費（持続的な大学改革を支える職員育成に係る取組み）」に申請を行い継続採択されました。教学改革を担い推進するプロフェッショナル職員の育成という観点から、5 ヶ年計画で中核人材の育成を行っています。

【補助金事業】

補助金申請事業については、昨年度に引き続き、文部科学省関連の私立大学等経常費補助金、教育研究活性化設備整備補助金等の申請を積極的に行いました。本学から申請可能な補助金については採択制補助金を含めすべての申請を行ったほか、大学教育再生加速プログラムや国際交流活性化事業など競争的補助金にも積極的にチャレンジし一定の成果を挙げることができました。

平成 26 年度(平成 25 年度事業報告以降に申請した平成 25 年度補正予算分も含む)は、次の特別補助事業も申請し採択され、本学の教育・研究や学内環境の向上につながりました。特に②の「平成 26 年度教育活性化設備整備事業」においては、4 タイプすべてに申請し、申請対象校 412 校のうち本学のように、3 タイプ(1・2・4)が採択された大学等は全国で 38 校のみでした。本学の教育・研究に対する取り組みが評価されたものです。なお、全体の事業額は、29,187,396 円、補助決定額は 24,686,000 円、本学負担額は 4,501,396 円となっています。

① 平成 26 年度私立大学等経常費補助金・・・・・・・・・・196,967,000 円

経常費補助金総額は全国で 568 校中 328 番目の額となりました(一般補助額 131,348 千円、特別補助額 65,619 千円、計 196,967 千円)。特に、特別補助額には、私立大学等改革総合支援事業申請により 32,000 千円が増額されています。

② 平成 26 年度教育活性化設備整備事業関係

事業名	事業額	補助決定額	本学負担額
タイプ 1 4 号館 3 階レストランのアクティブラーニング化のための改修	10,990,800	10,459,000	531,800
タイプ 2 学術情報センター 2 階整備	9,196,956	7,171,000	2,025,956
タイプ 4 語学教育強化のための教室設備什器等整備	8,999,640	7,056,000	1,943,640
計	29,187,396	24,686,000	4,501,396

3. 平成 26 年度の主な事業内容（詳細）

(1) 地域貢献事業

● 自治体との新規連携協定および自治体等連携の地域貢献活動

平成 26 年度の本学の地域貢献事業は、かねてより連携協定を締結している自治体における活動内容の充実を図るほか、南大阪地域から和歌山県へと地域貢献活動域を拡大し、進展を遂げています。

進展した側面としては 2 点挙げられます。1 点目は、新たな活動地域として、平成 26 年 9 月、和歌山県仁坂県知事立会いのもと、本学と同県湯浅町が「大学のふるさと」協定を締結したことです。これにより、本学は湯浅町という活動拠点を和歌山県に得て、過疎対策のために全学を挙げて教職員及び学生による研究や企画、地域活動を湯浅町のみならず、和歌山県とも連携して取り組んでいきます。3 ヶ年計画で始動し、期間延長も視野に入れた長期間の事業となります。

2 点目は、以前より連携協定を交わしている自治体での活動が順調に拡充され、特に堺市西区での活動は西区担当者とは本学担当者との連携を深めながら、地域での本学のプレゼンスは着実に増大しつつあると言えます。

一方、課題としては、本学の地域貢献事業推進・運営のための学内体制の整備に不十分な面があり、現在策定中の新中期計画において事業推進体制が整備される予定となっています。

具体的な平成 26 年度の地域貢献事業は次の通りです。

○堺市

[学生の地域貢献事業]

- * 浜寺ローズカーニバルボランティア：平成 26 年 5 月 18 日、浜寺公園にて献血活動補助を行いました。
- * 堺山之口商店街：平成 26 年 6 月 1 日、堺山之口商店街にて、地域コミュニティ交流拠点開設記念イベントに全学科より学生が参加しました。
- * 浜寺保育園児対象食育活動：平成 26 年 6 月から 11 月まで、羽衣“食育”プロジェクトのメンバーが浜寺保育園児と共にサツマイモを栽培・収穫し、保育園でデザートを調理して試食しました。保育園との連携は 2 年目。保育園側からも園児の保護者からも活動の継続が強く望まれている。メンバーの 1 人、田代里奈さんはこの活動とその成果を卒業論文にまとめました。
- * 堺市西区成人式実行委員会若者委員：平成 26 年 8 月から平成 27 年 1 月まで、西区の成人式の若者実行委員として本学生 5 名がイベントを企画し、平成 27 年 1 月 12 日の成人式当日、式典の運営にも参加しました。
- * 「堺・アセアンウィーク 2014」公式映像記録制作：平成 26 年 10 月 12 日、「堺・アセアンウィーク」における「堺・アセアン文化紹介」の公式映像記録制作を放送・メディア映像学科生の 2 年生と 3 年生の選抜メンバーが担当。平成 27 年 2 月に堺市長へ完成 DVD を贈呈しました。本年度で 6 年目となる事業。
- * 「堺まつり」：平成 26 年 10 月 19 日、堺市役所前広場にて、「第 41 回堺まつり」に西区代表ブースとして羽衣「食育」プロジェクトが食育ブースを出店しました。
- * 「西区ふれあいまつり」：平成 26 年 11 月 8 日、西文化会館ウエスティにて、「第 18 回西区ふれあいまつり」で宝生流能楽部の学生たちが謡と舞を披露しました。
- * 堺市立南浜寺中学校主催「ふれあい交流会」：平成 26 年 11 月 16 日、南浜寺中学校主催の「ふれあい交流会」で軽音楽部のバンドが子ども向けの楽曲を舞台上で演奏しました。
- * 留学生と堺市長との「ふれあいトーク」：平成 26 年 11 月 17 日、堺市役所にて「世界に誇れる堺の

魅力について」のテーマで、本学の留学生 3 名、鄭恵林さん（韓国、放メ）、蘇丹さん（中国、放メ）、ファム・ティ・ホップさん（ベトナム、観光）が参加しました。

* 堺高石青年会議所 11 月例会：平成 26 年 11 月 19 日、ホテルリバティプラザにて開催された堺高石青年会議所の国際交流例会において、本学の留学生及び外国籍出身保護者を持つ学生が参加し、「～相互理解で育もう「心」と「絆」～」についてディスカッションやスピーチを行いました。

* 「羽衣国際大学×堺市西区 包括連携協定締結記念講演会」：平成 27 年 1 月 11 日、西文化会館ウエスティにて、川淵三郎学術文化顧問をゲストに開催された「羽衣国際大学×堺市西区 包括連携協定締結記念講演会」の司会進行及び記録映像撮影に放送・メディア映像学科生が、また受付等運営に本学の学生（全学科）が携わりました。

* 西図書館主催 絵本の読み聞かせ：平成 27 年 3 月 22 日、西図書館にて、放送・メディア映像学科 3 年生の蘇丹さんが『スーホの白い馬』を母語の中国語で読み聞かせをしました。図書館員が読み上げる日本語と交互に中国語で絵本を読むほか、中国語での数え方やじゃんけんあそび、馬頭琴の音色などを披露し、20 名ほどの親子連れの観客と交流しました。

[教員の地域貢献事業]

* 大坪勇：堺市地域介護サービス運営協議会会長

* 小川雅司：堺山之口商店街の活性化事業計画の策定

* 小川雅司：堺市西区区民まちづくり会議 アドバイザー

* 小川雅司：公益財団法人堺都市政策研究所 市民研究支援者

* 村上清身：堺・アセアンウィーク実行委員会委員（2009 年度～）

[大学の地域貢献事業]

* 堺市立浜寺南中学校：本学職員が同学校区青少年健全育成協議会委員（平成 21 年度より継続）

* ミャンマー映画を堺で観る：平成 26 年 10 月 15 日、「堺・アセアンウィーク 2014」のプログラムの一つである「ミャンマー映画を堺で観る」の会場として、1 号館の 1401 教室を堺市に提供し、一般市民に開放しました。

* 献血事業：平成 26 年 11 月 19 日、赤十字南大阪事業所および泉大津ライオンズクラブと共催で、本学キャンパスにて献血を実施。本学学生及び教職員 70 名以上、そのほか羽衣学園高等学校生や一般市民 20 名ほどが献血に協力しました。

* ファミリーコンサート：平成 27 年 1 月 24 日、保護者会主催・本学共催の「ファミリーコンサート」を開催。大阪市音楽団を招聘、無料で市民に開放。1200 席がほぼ満席となり、また例年通り“あしなが育英会”への募金も同時に実施しました。

○高石市

[学生の地域貢献事業]

* 高石こども会カーニバル：平成 26 年 5 月 3 日、高石駅前広場にて、羽衣“食育”プロジェクト食育ブース（食物栄養学科）および「水槽コインおとしゲーム」ブース（人間生活学科）を出店しました。

* 高石ふれあいスポーツ大会：平成 26 年 6 月 7 日、臨海スポーツセンターにて、運営ボランティア（全学科）、司会進行役（放送・メディア映像学科）として参加しました。

* 高石シーサイドフェスティバル：平成 26 年 6 月 15 日、浜寺公園にて、運営ボランティア（全学科）、舞台出演（能楽部）、公式記録映像 DVD 制作（放送・メディア映像学科）として参加しました。

* 羽衣七夕まつり：平成 26 年 8 月 3 日、羽衣駅周辺にて、羽衣“食育”プロジェクトメンバーによ

る食育ブース出店（食物栄養学科）、司会などの運営ボランティア（放送・メディア映像学科、現代社会学科）として参加しました。

- *「高石市次世代ライフプランニング会議」：平成 26 年 10 月 30 日から平成 27 年 3 月 10 日まで、高石市職員と宮崎准教授、本学学生 14 名、南海福祉専門学校生数名が共同で少子化対策事業としてのべ 10 回の会議、アンケート調査、先進事例視察、シンポジウム、報告作成などに参加しました。
- *東羽衣子ども会ハロウィンパーティー：平成 26 年 10 月 31 日、東羽衣公民館にて、高石 10 区子ども会のためにハロウィンパーティーを人間生活学科生活マネジメントコースの学生が企画・運営しました。
- *「高石健幸フェスティバル」：平成 26 年 11 月 23 日、高石藤井病院前の大通りにて、食物栄養学科生が食育ゲームのブースを出店しました。
- *高石市まち歩きモニター：平成 26 年 12 月 5 日、高石市内を高石市職員と共に現代社会学科観光コース生がまち歩きを行い、若者に魅力的なまちづくりと PR のための提案を行いました。
- *せいこう幼稚園クリスマス：平成 26 年 12 月 19 日、せいこう幼稚園で開催されたクリスマスイベントに人間生活学科生活福祉コース生がサンタクロースなどに扮して、ゲームやプレゼント配りを実施しました。
- *たかいしボランティア市民活動フェスティバル：平成 27 年 3 月 7 日、食育プロジェクトが参加。（高石市社会福祉協議会主催）食育ブースと展示、活動の発表を行いました。

[教員の地域貢献事業]

- *杉原充志：高石市人権推進審議会委員
- *棚山研：高石市公民館運営審議会委員、高石市指定管理者選定委員
- *朝西知徳：高石市スポーツ推進委員
- *小川雅司：羽衣駅東地区まちづくり推進協議会委員
- *渋谷光美：高石市社会福祉協議会委員
- *宮崎陽子：高石市社会教育委員

[大学の地域連携事業への参加：防災関係]

- *地震津波総合避難訓練：平成 26 年 11 月 4 日、避難警報と同時に学舎外への全学避難の後、留学生を含む約 20 名の学生が教職員の誘導で、本学から鴨公園までの避難ルートを歩き、避難に要する時間、およびルートと避難集合場所の確認を行いました。また、高石市第 10 区自治会に本学を一時避難集合場所として提供しました。

○泉大津市

[学生の地域貢献事業]

- *旭小学校への出前授業：平成 26 年 6 月 3 日、泉大津市立旭小学校 5 年生のクラスにて、食物栄養学科「国際食文化プロジェクト」の 6 名が「沖縄を知ろう！」のテーマで出前授業を行いました。
- *条南小学校への出前授業：平成 26 年度月 24 日、泉大津市率条南小学校 5 年生のクラスにて、食物栄養学科「国際食文化プロジェクト」の 6 名が「沖縄を知ろう！」のテーマで出前授業を行いました。
- *「浜街道まつり」：平成 16 年 5 月 25 日、「第 13 回浜街道まつり」のイベントのボランティアとして参加しました。

[教員の地域貢献活動]

- *杉原充志：泉大津市第 4 次総合計画専門委員

*永岡俊哉：泉大津市市民活動支援センターのあり方を考える懇話会委員

[大学の地域貢献事業]

*本学の社会人対象講座を同市生涯学習支援対象講座として提供：泉大津市が推進する生涯学習政策の一環である、同市が交付する奨励金対象講座として、本学の「授業公開講座」および「羽衣社会人講座」を提供しました。

○和歌山県

[学生の地域貢献事業]

*湯浅町 顯國神社秋の例大祭：平成 26 年 10 月 18 日、湯浅町にて、1200 年の歴史をもつ顯國神社が行う秋の例大祭で神社の神輿を本学学生 20 名（現代社会学科、食物栄養学科）が担いで町内を練り歩きました。若者が減って担ぎ手がいなくなり、数年間トラックで運んでいたのを人の肩に乗せての「渡御」を本学学生によって復活させることができました。

*湯浅町 「鯖っと鰯まつり」：平成 26 年 10 月 26 日、湯浅町にて開催された第 12 回「鯖っと鰯まつり」に食物栄養学科生をはじめ 20 名の学生が参加しました。食物栄養学科の石川准教授のゼミ生は夏期休暇中、湯浅町の特産物について合宿調査を行い、湯浅町の特産物を使ったメニューを考案し、祭の当日、重要伝統的建造物である「北の町老人憩いの家」で、1 日限定「羽衣食堂」を開店しました。学生が作った金山寺味噌を使ったパスタや特産物満載の特製弁当 150 食を販売しました。港近くの祭の本会場では、特製弁当のほか、食物栄養学科生が焼いたミカンシフォンケーキを現代社会学科生がブース販売や移動販売を行い、羽衣国際大学と「羽衣食堂」の広報に努めました。この日の本学学生の活躍はテレビ和歌山などのマスコミで大きく取り上げられました。観光コースの学生は祭終了後、今後の活動に向けて、湯浅町の観光資源視察も行いました。

*湯浅町 「シロウオまつり」：平成 27 年 3 月 7 日、湯浅町にて開催された「シロウオまつり」で、湯浅町の春の特産物、三宝柑を入れたクッキーを食物栄養学科生が作り、ブースを設け販売しました。

*湯浅町 はっぴのデザイン：平成 26 年 12 月～平成 27 年 3 月、人間生活学科清水尚子教授指導の下、生活マネジメントコース学生がはっぴのデザインを学び、平成 27 年度より本学学生が湯浅町で着るはっぴのデザインコンテストに参加し、増田万里子さんのデザインが最優秀賞に選ばれ、そのデザインを本に湯浅町が 30 枚のはっぴ製作を行いました。

○大阪府、大阪市

[学生の地域貢献事業]

*「全国スポーツ少年大会」：平成 26 年 8 月 2 日、貝塚市民文化会館にて、（公財）日本体育協会日本スポーツ少年団及び（公財）大阪体育協会大阪府スポーツ少年団主催「第 52 回スポーツ少年大会」開会式にて司会進行を放送・メディア映像学科生 2 名、藤野美里さん、山村達也さんが務めました。

[教員の地域貢献事業]

*村上清身：「人権啓発スポット映像企画制作および放映業務」選定委員長

大阪府国勢調査の広報実施業務プロポーザル選定委員 議長

大阪府広報担当副知事「もずやん」プロデュース事業 事業者選定委員 議長

大阪府議会広報テレビ番組 事業者選定委員

[大学の地域貢献事業]

*「大阪中学生サマー・セミナー」：平成26年8月8日、大阪府、大学コンソーシアム大阪、南大阪地域大学コンソーシアムが主催する大阪府下の中学生を対象としたサマー・セミナーに4科目（各学科より1科目ずつ）を提供し、90名の中学生が参加しました。

○熊取町

〔学生の地域貢献事業〕

*「熊取町農業フェスタ」：平成26年12月7日、熊取町にて「熊取町農業フェスタ」の出展する会場ブースの掲示や飾りつけや調理ブースでの手伝いを食物栄養学科「国際食文化プロジェクト」の学生5名が担当しました。

○河南町

〔教員の地域貢献事業〕

*小川雅司：河南町地域公共交通検討会議委員

○京丹後市

〔学生の地域貢献事業〕

*奥大野区連携農業体験&伝統産業映像記録&創作料理交流会：平成26年8月25日～29日、京丹後奥大野区にて、放送・メディア映像学科生と食物栄養学科生18名が合宿を行い、有機農業体験を行いながら、地元の伝統産業を放送・メディア映像学科生が映像記録として残し、食物栄養学科生が有機野菜を使った18種類のレシピを考案・調理し、区民を招待して創作料理交流会を開き、区民との交流を深めました。区民による投票で選ばれたベストレシピを考案した高村勇貴くんが川口奥大野区長より表彰を受けました。この交流会は地元新聞などで紹介されました。

● 社会人対象講座および産学連携講座

地域住民を対象とした以下の各種講座を実施しました。社会人講座の受講者数は前年度比+15名、一般公開講座は前年度比-32名となりました。

- ・羽衣社会人講座：合計34講座開講（前期17講座、後期17講座）、受講者数合計416名
- ・第30回一般公開講座「なぜ今、コミュニティなのかー羽衣からの発信ー」：10月4日～12月23日、講座8回、能楽鑑賞会1回開催、受講者数89名
- ・授業公開講座：合計45講座開講、受講生がいた講座18講座、受講者数合計35名
- ・産学連携講座：本学が南大阪地域大学コンソーシアムに提供している産学連携科目「キャリアと社会」が、関西国際空港株式会社との連携の下、広域単位互換センター科目として平成26年9月9日（火）から9月11日（木）にかけて合宿形式で実施し、本学からの参加学生数5名を含む73名が参加しました。

● 羽衣国際大学わかやまサテライトで行われた主な行事

【入試関係】

- ・高等学校進路指導教員対象「入試説明会」：平成26年7月4日（金）16高校18名の参加
- ・公募制推薦入試 和歌山会場として入学試験を実施 平成26年11月8日（土）
- ・一般入試・特待生入試 和歌山会場として入学試験を実施 平成27年1月31日（土）

【市民講座関係】

- ・「第5回市民講座」：4講座開講、受講者数88名 平成26年5月27日（火）～7月14日（月）

- ・「第6回市民講座」：4講座開講、受講者数75名 平成26年10月30日（木）～11月22日（土）
- ・「第7回市民講座」：1講座開講、受講者数69名 平成27年3月19日（木）

【就職支援関係】

- ・和歌山在住の3年生・和歌山での就職希望の4年生及び保護者を対象とした「就職説明会&相談会」を平成26年5月31日（土）・6月1日（日）に開催。5/31(土)17名参加（3年生8名、4年生2名、保護者7名）、6/1(日)10名参加（3年生8名、4年生1名、保護者1名）がありました。和歌山で働いている卒業生2名による体験報告も行いました。
- ・和歌山市にある企業（紀水産業株式会社）の会社説明会・選考会を平成26年9月13日（土）に実施しました。
- ・「わかやまで就職しよう！」セミナーを平成27年1月22日（木）、本学にて開催し、3年生12名の参加がありました。
- ・和歌山在住の4年生32名中、卒業者は25名。就職希望者18名、就職決定者18名、就職決定率100%でした。就職決定者18名のうち6名が和歌山の企業に就職をしました。
- ・和歌山におけるインターンシップ研修（夏季5名、春季2名）の派遣・研修先訪問の協力をしました。

【地域貢献関係】

- ・食育プロジェクト：和歌山市内で「わかやま食と健康フェア2014」が平成26年10月26日（日）に開催され、食育プロジェクトの学生9名が参加しました。
- ・「大学のふるさと」事業が始まり、地域貢献活動が行われました。
平成26年9月1日（月）、和歌山県庁にて和歌山県・湯浅町・本学が協定の締結をする。
平成26年10月18日（土）湯浅町建国神社の秋祭に学生20名が参加。
平成26年10月26日（日）「鯖つと鮎まつり」に学生20名が参加。
平成27年3月7日（土）シロウオまつりに学生5名が参加。
平成27年1月 湯浅町の新法被デザインを人間生活学科の学生が考案。
- ・和歌山放送主催「あなたもDJ体験」が平成26年11月2日（日）に開催され、学生1名がラジオ生出演をしました。
- ・「音の出る信号機」募金活動が平成26年12月23日（祝・火）に開催され、学生3名が参加しました。

(2) 国際交流事業（海外の大学との新たな基本協定）

国際的視野を持った人材の養成を教学上の柱の一つとしている本学では、従来から海外協定校との連携による国際交流事業を積極的に展開しました。平成26年度は、海外協定校の学生25名を対象に日本研修を行いました。国境を越えての学生国際カンファレンスや日本研修では、本学学生企画のもと、活発な交流を行いました。また、海外協定校学生に対しての日本留学促進や本学学生に対しての海外への興味関心を高めることを目的として、学内で「国際交流大使」を募集し、5名の学生を任命しました。海外派遣、日本研修サポート、本学学生に対しての海外研修の案内、正課授業内での海外研修紹介など、趣向を凝らした企画提案事業が進んでいます。

（留学生の活躍）

平成26年度138名（5月1日現在）の留学生が在籍していました。毎年、地域の教育機関から、国際理解授業などの一環として、留学生との交流の要請があります。平成26年度は以下の取り組みを行いました。

- ・羽衣学園高等学校1年生205名を対象として、12月15日（月）、17日（水）、国際感覚を養うための留学生出身国紹介、質疑応答、レクリエーション等が実施されました。

(3) 学生支援（全学共通）

- ・経済支援（特待制度、奨学金等）：特待生入試や特待制度により、学業優秀で向学心がありながら家計の状況が厳しい学生や特に学業の優れた学生に対して支援を行いました。また、入学後学業成績の優秀な学生を対象とした Be the One 特別給付奨学金の公募を行い、各学部各学年から合計 6 名の学生に対して年間授業料の全学免除を行いました。その他、留学生を対象とした学内給付奨学金や、日本学生支援機構、各種民間団体の奨学金などを活用した支援を行いました。学生支援機構の奨学金については、個々の学生の経済状態を把握し、借りすぎへの注意喚起や、年度途中の増額希望に丁寧、親身に対応しました。羽衣学園後援会からの原資による羽衣スカラシップは、成績優秀で勉学態度が他の学生の模範となる者（2 年生対象）に対して支援を行いました。卒業単位を取得しているにもかかわらず、経済的困窮のために学費が納められない学生に対しては、羽衣国際大学学内奨学金を一定の審査を経て貸与しました。
- ・留学生支援：在籍確認を徹底し、個々の学生のゼミ担当教員・アドバイザーと連携して欠席の多い学生の状況把握・支援・指導を入念に行いました。平成 26 年度は、特に留学生と日本人学生の交流に力をいれ、留学生歓迎学外研修では、現代社会学科観光コースの 1 年生が企画・運営を行い、留学生と日本人学生との交流が積極的に行われました。
- ・学友会活動支援：大学祭をはじめ、新入生歓迎会、クリスマスイルミネーション、卒業記念パーティーなど、学友会の学生のみで企画運営する力が年々養われてきています。大学祭（HA☆GO 祭）は 11 月 1 日（土）2 日（日）に実施しました。テーマは、「Welcome to a New World!!!」。大学祭に来るだけで、「パアッと笑顔になれるような HA☆GO 祭にする」という学友会一同の願いがこもった大学祭となりました。大学祭のゲストは BIG MAMA、お笑いライブは中川家、スーパーマラドーナ、ヒガシ逢ウサカが出演し、HA☆GO 祭を盛り上げました。
- ・クラブ・サークル活動支援：クラブ・サークル数は平成 26 年度末現在、26 のクラブ・サークルが活発に活動しています。主な戦績は、「第 26 回全日本ベンチプレス選手権大会」（11 月）において、パワーリフティング部の寺門隆太くんはジュニア男子 59 kg 級 3 位、海崎充弘くんは、ジュニア 83 kg 級 4 位、「第 26 回近畿ベンチプレス選手権大会」（10 月）では、寺門君は優勝、海崎君は 2 位という成績を収めました。また、居合道部、ダンスクラブ、宝生流能楽部、軽音楽部などは、地域でのイベントに積極的に参加しました。

(4) 学修支援事業（全学共通）

- ・学習支援：基礎学力向上を目的とした e-Learning について、基礎コース、就職入門コース、SPI 対策コースを昨年度に引き続き実施しました。また、読書推進の一環として開始した、「羽衣必読書 208 コンクール」も平成 26 年度は 8 回目を迎えました。多くの学生が夏休みを利用して読書に親しみました。審査の結果 8 名が入賞し、最優秀賞には、放送・メディア映像学科下浦万喜さんと松田美羽さん 2 名が選ばれました。

夏休み終了後、全学生を対象に実施している「羽衣教養検定」は 8 年目を迎えました。1 位の食物栄養学科の中長春佳さんは、昨年度も入賞しています。本年度は、上位 5 名が表彰を受けました。

- ・資格取得支援：検定資格については、各学科と教学センターが学生・学習支援グループが連携し、目標資格の設定、各種対策講座の開講により、多様な検定資格を取得しました。特に、平成 26 年度は、「資格案内」について、16 ページの冊子を作成し、詳細な日程や合格者の声を掲載し、資格取得への意欲喚起を行いました。
- ・国際交流・海外研修プログラム：オフキャンパス教育の柱の一つ「海外研修」について、平成 26 年度

は、学生支援機構「留学生交流支援制度」(奨学金)公募への申請を行い、交換留学プログラム(双方向)、日本語ティーチングアシスタントプログラム、語学・異文化体験プログラム、シアトル英語・専門実習プログラム、語学研修&海外ボランティア/インターンシッププログラム、タイボランティアワークキャンププログラム、以上6プログラムが採択されました。平成26年度の海外派遣者数は延べ、46名でした。本年度は、特に1 Semester~1年間の長期派遣に力を入れ、4名の学生がアメリカ、ニュージーランド、韓国に留学しました。

【海外派遣実績】

交換留学(6か月間)(韓国・湖西大学校)・・・1名

交換留学(1年間)(韓国・順天郷大学校)・・・1名

語学・異文化体験プログラム1(14日間)(韓国・又松大学校)・・・3名

語学・異文化体験プログラム2(10日間)(韓国・湖西大学校)・・・5名

語学・異文化体験プログラム3(14日間)(アメリカ・サウスピュージェットサウンドコミュニティカレッジ)・・・10名

語学・異文化体験プログラム4(15日間)(オーストラリア・サザンクロス大学)・・・4名

日本語ティーチングアシスタントプログラム(14日間)(台湾・中台科技大学)・・・7名

日本語ティーチングアシスタントプログラム(14日間)(中国・天津商業大学)・・・1名

ボランティアワークキャンプ(9日間)(タイ・バンコク大学)・・・12名

語学研修&ボランティア(4ヶ月間)(ニュージーランド・フィティレイア国立工科大学)・・・1名

語学留学(6ヶ月間)(アメリカ・サウスピュージェットサウンドコミュニティカレッジ)・・・1名

合計46名

【海外からの受け入れ実績】

1 交換留学

韓国・順天郷大学校、中国・天津理工大学・・・平成26年9月から平成27年8月まで3名

韓国・湖西大学校・・・平成26年9月から平成27年2月まで1名、平成27年3月から平成28年2月まで2名)

台湾・中台科技大学・・・平成27年3月から平成27年8月まで1名)

2 短期受け入れ(1年)

中国・天津理工大学・・・平成27年3月から平成28年2月まで3名

3 短期受け入れ

・台湾・中台科技大学・・・5月12日(月)から23日(金)まで4名 現代社会学部現代社会学科国際文化・英語コース受入

・ニュージーランド・フィティレイア国立工科大学・・・6月27日(金)から7月12日(土)まで2名 放送・メディア映像学科受入

・台湾・中台科技大学・・・7月1日(火)45名 人間生活学科生活福祉コース教員講演&日本の福祉関連施設見学

・アメリカ・サウスピュージェットサウンドコミュニティカレッジ10名、韓国・湖西大学校12名、台湾・中台科技大学3名、計25名 7月16日(水)~26日(土)内容:「学生国際カンファレンス&日本文化体験」

・韓国・湖西大学校・・・1月13日(火)11名 日本研修開講式&日本文化体験

・学生プロジェクト関係：

代表的な学生の自主プロジェクトとして、平成 21 年度に発足した羽衣“食育”プロジェクトは、関係教職員や地域住民の支援を受けながら、その後も旺盛に活動を継続しています。「菜園プロジェクト」、「料理教室プロジェクト」、「情報誌プロジェクト」、「学食プロジェクト」の 4 つプロジェクトのほか、高石市子ども会イベント（子ども会カーニバル）、近隣の羽衣商店街で行われる「羽衣七夕まつり」、和泉市「いずみっ子料理教室」の企画および実施、和歌山県主催「わかやま 食と健康フェア」等ボランティア活動も積極的に行いました。また、株式会社カゴメよりトマトの苗を寄贈いただき、近所で借りている畑で育て、近隣保育園の園児とともに収穫し、学生が園児にクッキング指導をしてともに収穫物を味わう企画を主体的に取り組み、畑の収穫物を活用した保育園児への卒園お祝いなどを行いました。

- ・ **ボランティア支援**：今年度は、21 件のボランティア協力の依頼があり、掲示での周知、学科・コースの専門性に目配りした学生への呼びかけに加え、HAGO フォリオでの協力依頼を行いました。参加延べ人数は 160 名でした。ほかに、なんば駅周辺での献血協力でのボランティアに約 50 名の学生が参加しました。

また、恒例となっている「学内外美化運動」は、8 年間継続して 5 月と 10 月に約 1 ヶ月間行っています。今年度の参加者は延べ 402 名で、全学的活動として定着してきました。地域と共生する大学をめざし、今後も美化運動を推進していきます。

・ **学術情報支援（図書館関係）**

競争的補助金「私立大学教育研究活性化設備整備補助金」に申請し、採択されました。獲得金額は、7,171 千円で、図書館内に地元自治体との交流スペースを拡充し、連携事業や共同プロジェクトの成果を発表、展示、記録、保存する機能を整備しました。

平成 26 年度の利用状況は、入館者数が 19,159 名、貸出冊数が 4,536 冊でした。また、毎年実施している図書館利用教育において、今年も 1 年生を対象に図書館ツアーを、教員の希望があった基礎演習、専門ゼミでは情報検索講座を実施しました。

平成 26 年 12 月より堺市立西図書館との連携事業を開始し、堺市立西図書館において、留学生による母国語の絵本読み聞かせ、本学資料によるブックフェアを実施しました。

(5) **教学内容の充実（学部・学科別）**

各学科別の平成 26 年度の教学充実等の主な取り組みは以下の通り。

現代社会学部

放送・メディア映像学科

- ・ 入学者数増加への試み

- 1、出前授業への積極参加＋第二弾チラシ制作（出前授業の内容告知）
- 2、放送部に重点を置いた高校訪問を試験的に行い、実績を残しました（岡山県・山口県）
- 3、メディアを使った広報戦略

2009 年以降恒例となっている学生が作る大学 CM。26 年度は琉球放送（沖縄）で行われる入試説明会（永岡先生コーディネイト）をテーマとした CM を制作。

毎日放送ラジオと J:COM テレビの共同制作番組「魁！なすなか塾」に学生が出演と演出を担当、大学の広報活動の一端とオフキャンパスプログラムの両立を目指す新しい試みを行いました。

（25 年 10 月から 26 年 9 月末）

- ・ 官学との連携（オフキャンパス教育の拡充）

- 1、堺市のアセアンウィーク記録映像の制作、堺市 PR ビデオの制作、高石フェスティバルの記録映像、堺市堺区の歴史アーカイブ映像の制作、「包丁鍛冶職人の匠の技」など、一般公開（区役所のライ

ブラリー化)を前提とした保存可能な作品を学生の視点を活かし制作しました。

- 2、京都府京丹後市の協力を得て、この地域で力を入れている有機野菜農法と農家民泊(農家の生活体験)を紹介する映像を25年に引き続き制作しました。26年度の特徴は食物栄養学科の学生参加で地元野菜を使ったグルメレシピ開発や夕食会を催し、地元の方々との協力関係を築きました。この試みは過疎化に悩む地方活性化のモデルケースと成り得る可能性があります。
- 3、アナウンスを学ぶ学生の取り組みは、和歌山放送ラジオチャリティイベントや全国スポーツ少年大会の開会式の司会を務めるなど専門性を生かした地域貢献を行いました。
- 4、大阪国際ユースホステルPR映像の制作などのボランティアを通し、実践的な学びの場を提供しました。

・国際化への取り組み

- 1、一昨年度締結した中国大連市の遼寧師範大学との大学間協定に基づき、放送・メディア映像学科と類似の教学内容を持つ遼寧師範大学の影視学院との学生交流の継続、新たに大連にある東軟信息学院の学生の受け入れ、またアメリカシアトルSPSCC、ニュージーランド・フィティレイア国立工科大学の学生交流、韓国湖西大学の交換留学生受け入れなど本学の国際化に力を注ぎました。

・資格取得

- 1、イベント検定やニュース時事能力検定などの目標検定資格を定め、資格取得を支援しました。
- 2、平成23年度に申請を行い認可された教職課程(情報教諭)が、平成24年度入学生より適用され、本年度も引き続き教職課程の取得を目指す学生指導を行いました。

現代社会学科

【Ⅰ】学科および4コースの教育目標と理念の確認

現代社会学科は学科の訴求力について検討し、4コースを貫く学科としての教育理念・目標、また、4コースそれぞれの教育理念・目標の特徴が見えない点に弱さがある、と結論しました。

学科全体で討議した結果、学科および4コースの教育理念・目標や特徴を下記のように定め、OCや高校訪問、入試説明に用いるチラシやPPTにも明記し、現代社会学科・4コースとしての統一性と個別性を打ち出しました。

1) 学科の教育理念・方針 「グローバル」(“Think Globally, Act Locally”)

(世界を視野に入れ、地域にコミットする人材の育成)

2) 4コースの教育理念・目標

現代ビジネスコース	地域社会に貢献するビジネスリーダーの育成
観光コース	地域社会を元気にする観光リーダーの育成
スポーツライフコース	地域社会で活躍するスポーツリーダーの育成
国際文化・英語コース	地域と世界をむすぶ人材の育成

【Ⅱ】留学生の確保

平成26年度入試の現代社会学科入学者数減の原因(特に現代ビジネスコース、観光コース)に留学生数の激減があると結論し、平成27年度入試における留学生確保に向けて、入試センターと協力して、日本語学校(協定校・指定校)への訪問と入試説明を行いました。

【Ⅲ】資格の強化

女子学生にとって魅力的な資格の強化を目的として、昨年度から開講した「ブライダル入門」(1年後期)に加え、下記のブライダル資格関連科目を増設し、非常勤講師を任用し、日本ブライダル文化振興協会に入会しました。増設した科目は以下の通りです。

【Ⅳ】地域連携

本学が「大学のふるさと」として全学的な協定関係にある和歌山・湯浅町の「鱈・鯖と祭」に、観光コースが参加し、協力しました。

人間生活学部

食物栄養学科

- ・平成26年度も前年度の国家試験対策の多くを踏襲した形で、週3回の管理栄養士特別演習(受験対策授業)、苦手科目の少人数制補習、夏期特別補習などを行いました。さらに自主的な勉強への取り組みを促進する新たなサポートとして国家試験対策室を設け、専任アルバイトが学生の質問に答え、勉強の仕方を指導するシステムを開始しました。これらの努力が功を奏して、今年度は受験生の全員が合格し、合格率は初めて100%を達成しました。また、4年制大学の全国平均(95.4%)を大きく上回りました。
- ・管理栄養士国家試験の受験率は、23年度61%(36/59)、24年度55%(29/53)、25年度60%(41/67)、26年度55%(47/85)でした。受験率向上も大きな課題です。2年生、3年生から独自の補習と夏期・春期実力テストを引き続き実施しました。
- ・食品衛生監視員、食品衛生管理者養成施設の申請を行い認可されました。H27年度入学生より資格取得が可能になります。
- ・食物栄養学科において、数学の学力は濃度計算や栄養価計算、統計的解析に不可欠で、国家試験対策としても重要ですが、本学入学生には十分なレベルに達していないものも多いことから、基礎演習Ⅰ、Ⅱでレベル分けした計算力補充演習を行いました。
- ・学科の新たな魅力化分野として「スポーツ栄養」の研究、教育の仕組み作りを進めています。H26年度は至学館大学(愛知県)のスポーツ栄養の取り組みを視察し、至学館大学杉島有希先生による特別講演会を本学で行いました。さらに現代社会学部で開設されている科目「スポーツと栄養」をH27年度より本学科学生も受講できるよう、互換科目に設定することが決まりました。
- ・本学科学生が中心となっている食育プロジェクトが、内閣府より「食育推進ボランティア」表彰を受けました。
- ・本学と和歌山県が包括協定を結んでいる「大学のふるさと事業」の一環として、湯浅町との交流事業(鯖と鱈まつり、シロウオまつり)に本学科学生も多数参加しました。鯖と鱈まつりでは「羽衣食堂」を出店し、地元の食材を使ったお弁当やスイーツを販売し、シロウオ祭りでは三宝柑クッキーを提供しました。その他、地元食材を使ったレシピづくり事業で活動中です。
- ・包括的連携協定を締結したテラプロジェクトの数々の活動に学科学生が参加しました。その一環として「世界クリスマスツリー市民選手権2014」にHappy Fruits X' mass Treeを出展し、グランプリ賞(1位)を獲得しました。
- ・放送・メディア学科による京丹後市との連携事業に、本学科学生も昨年度に引き続き参加し、地元の食材を使った料理作りで交流を行いました。

人間生活学科(生活福祉コース)

- ・介護福祉分野におけるビジネスリーダーの育成という教学目標に沿って、関連科目の履修指導を

強化しました。

- ・卒業研究発表について、他学年の学生を参加させ今後の研究への取り組みについて交流を深めました。
- ・平成 26 年度卒業生については、介護福祉士国家試験は課せられていませんが、「卒業時共通試験」を「国家試験」受験することと位置づけ、受験対策講座を行いました。
- ・高大連携授業の実施、オープンキャンパスでの教員と在學生との協力、高校・3 年次編入学案内に関する関係校への訪問活動等により、生活福祉コースへの入学者確保に向けた活動を行いました。
- ・実習指導者懇談会を 9 月に実施し、実習施設における実習生の受け入れについて講演及びディスカッションを行ないました。
- ・地域の福祉施設を中心に学生ボランティアを組織・派遣し地域貢献活動を行いました。
- ・介護福祉士国家試験（実技試験）の現地試験委員補佐（専任教員 2 名）・試験モデル（在學生 4 名）に協力を要請し派遣しました。
- ・堺市及び高石市に対し福祉分野における委員会へ教員を委員として派遣しました。
- ・日本介護福祉士養成協議会総会へ教員を派遣しました。
- ・介護福祉士養成協議会近畿ブロック教員研修会実行委員として委員を派遣しました。

人間生活学科（生活マネジメントコース）

- ・家庭科教諭を目指す学生達が自主的に教科指導を研究する家庭科クラブの活動を支援すると同時に、教員採用試験の対策講座を設けて教職への就職対策を強化しました。
(1 名が 27 年度より母校の大商大堺高校で講師として勤務しています。また、1 名が大阪府の教員採用試験一次試験に合格しました。)
- ・各種資格取得対策講座を設けて、積極的に資格取得を支援しました。
(医療管理秘書士 4 名・診療実務士 1 級 4 名・医療事務士 1 名・インテリア設計士 2 級 6 名 ピアヘルパー資格 1 名 の資格取得の成果を挙げました。)
- ・卒業研究による論文の作成に力を注ぎ、考察力・文章力・プレゼンテーション能力の向上を図りました。
(卒論発表会では 4 年生全員がレジュメとパワーポイントを使って、論文の発表を行い、さらに質問や反論に対応する能力を発揮しました。
また、第 56 回 NDK 新人デザインコンテストにおいて、2 年生・3 年生・4 年生の 3 名がデザイン画による第一次審査を通過し、ファッションショー形式の実物審査に臨みました。)
- ・オフキャンパス活動を積極的に紹介し、様々な学生が挑戦し成長する機会を提供しました。
(和歌山県湯浅町の祭りで着用する法被のデザインに「ドローイング」の受講生の作品が選ばれました。湯浅町と本学関係者の投票による、多数の応募者の中からの選出です。
また、高石市の少子化対策事業「次世代ライフプランニング会議」に、2 年生 3 名・3 年生 1 名・4 年生 2 名が参加しました。先進市である福岡市・武雄市の視察内容を報告するシンポジウムでは、その中のひとりが学生代表として意見を述べ、重要な課題に真摯に取り組む姿勢を見せました。)

(6) キャリア形成支援、就職活動支援

- ・**キャリアカウンセリング機能の強化**：業務委託により 3 名の専門カウンセラーをキャリアセンターに配置。カウンセラーはキャリアサポート室でカウンセリング業務を行うほか、ゼミ担当教員やクラスア

ドバイザーと連携し、ゼミ等の授業でも就職支援を行いました。学生からの評価も高く、年間利用回数は延べ2,500回となり、利用者の就職は97%を超える高い決定率となっています。また、今年度より、毎月第2火曜をカウンセラー・キャリアセンター職員の情報共有の場として、キャリアセンターミーティングを実施しました。特に今年度は、本学の履歴書と他大学（20大学分）の履歴書と比較見直しを全員で行い、次年度からは学生が書きやすく、企業が見やすい簡素化された履歴書が使用されることになりました。

• **各種就職支援講座の開催**：従来からの各種就職活動支援として、就職支援プログラム（現代社会学部「キャリアプランニングⅠ・Ⅱ」、人間生活学部「就職活動プログラム」）、学内合同企業セミナー、学内採用選考会・学外合説バスツアー、新卒応援ハローワーク相談会、面接特訓講座・メイク講座・志望動機の創り方講座などを実施しました。

• **インターンシップの推進**：就職活動解禁時期の後ろ倒しによる採用スケジュールの変化を踏まえ、近年、企業では急激にインターンシップが注目を集めています。本学のインターンシップ受入企業数も、平成25年度の107社に対して平成26年度は130社と120%超の増加となっており、企業のインターンシップに対する関心の高さを物語っています。

インターンシップ参加者は、平成25年度の68名に対して平成26年度は66名とわずかに下回りましたが、これは実習日程等の問題で事前に参加を断念せざるを得なかった学生が出たことによるものです。また上述の通り、就活・採用スケジュールの変動によりインターンシップも多様化していき、今後は低学年次のインターンシップにも拍車が掛かっていくことが予想されていますが、従来からインターンシップの低学年化を推進してきた本学では、参加者における低学年（1・2年生）の割合は、平成25年度が44名（約65%）だったのに対し、平成26年度は45名（約68%）と、変わらず高い割合を示しています。本学では、この低学年からの実習参加促進という方針を堅持し、早期の社会人基礎力養成効果を高めていくことを図ります。

• **就職希望率、就職決定率など**：就職希望率は、80.4%と昨年度（74.0%）に比べ6.4%高くなっています。就職決定率も現代社会学部97.5%、人間生活学部95.2%、全体で96.2%と昨年（93.7%）に比べ2.5%高くなっています。特に留学生については、旅行関係のニーズが高くなったことから、就職希望者全員が就職先を確定したため、次年度の特定ビザ申請者は0人となっています。

ただ、次年度は初めての秋卒業生（留学生）を送り出すことから、早い段階からの就活支援を考えていく必要があります。

(7) **FD・SD活動**

本学では、日常的に各学部・学科・コースのミーティング、各事務部局のミーティングが頻繁に開催されており、OJTによるFD・SDが行われています。また、事務職員については事務局長による担当職務に係る指名研修もあり、外部研修へ参加しています。そのほかの研修として実施されたものは次の通りです。

• **夏季教職員合同研修会の実施**：9月4日（木）、理事長参加のもと、全教職員を対象とした合同研修を実施しました。午前の部では、①学園報告 ②新着任職員の紹介等 午後の部では、①ICT機器の活用について ②学部・学科の魅力化について が行われました。

• **職員研修会の実施**：8月29日、全職員研修が実施されました。午前は、各グループの業務総括と今年度の目標についてプレゼンおよび質疑応答、午後からは、大学改革への具体的取組提言を行いました。全職員が説明資料を作成、提出し、当日は3分間でプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

• **FD研修会の実施**：本年度は、9月2日と2月24日の2回、中井俊樹・名古屋大学高等教育研究セン

ター准教授(現・愛媛大学教授, 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長)をお招きし、次のとおり実施しました。

日 時	場 所	演 題
平成 26 年 9 月 2 日(火) 午前 10 時 30 分～午後 0 時	1103 教室	アクティブラーニングの方法、道具、環境
平成 27 年 2 月 24 日(火) 午前 10 時 30 分～午後 0 時	1103 教室	アクティブラーニングの実践的方法について

- ・**合同 SD 研修会への参加**：南大阪地域大学コンソーシアム所属 6 大学の連携による合同 SD 研修会が 12 月 4 日に開催され、本学導入の学内情報システムに関し、「グループウェア活用による学内情報共有促進」の発表を行いました。

(8) 補助金申請事業

- ・**採択制補助金への申請**：教育研究の充実につながる各種採択制補助金には、積極的に申請を行なう基本方針のもと、以下の補助金申請を行いました。

- **【日本私立学校振興・共済事業団】未来経営戦略推進経費** (総合企画室)
⇒ **継続採択 補助金額 6,000 千円**
- **【日本私立学校振興・共済事業団】未来経営戦略推進経費** (総合企画室)
- **【日本私立学校振興・共済事業団】学術研究振興資金** (学術情報センター)
⇒ **1 件中 1 件不採択**
- **【日本学術振興会】科学研究費 *平成 25 年度以前事業開始分 (新規 3 件・継続 3 件)**
 1. 研究種目：基盤研究 (C) **【新規】** 研究期間：平成 26～28 年度
研究課題：正倉院文書の読解を通じた上代文学の表現の生成に関する研究
研究分担者：中川ゆかり 教授
研究分担者：岩崎 千鶴 教授 (お茶の水女子大学・大学院)、桑原 祐子 教授 (奈良学園大学)
 2. 研究種目：基盤研究 (C) **【継続】** 研究期間：平成 24～26 年度
研究課題：水道水の味覚および成分プロファイリング
研究代表者：池 晶子 教授 研究分担者：川瀬 雅也 教授 (長浜バイオ大学)
 3. 研究種目：基盤研究 (C) **【継続】** 研究期間：平成 25～29 年度
研究課題：EPA に関連するアジアでの介護人材養成の動向
研究代表者：渋谷 光美 准教授
 4. 研究種目：基盤研究 (C) **【継続】** 研究期間：平成 24～26 年度
研究課題：知的障害児のための 3D を用いた文字発音学習支援システムの開発
研究代表者：小田 まり子 准教授
 5. 研究種目：若手研究 (B) **【新規】** 研究期間：平成 26～29 年度
研究課題：高等学校家庭科における住宅事情・住宅問題・住宅政策学習の研究
研究代表者：宮崎 陽子 准教授
 6. 研究種目：基盤研究 (C) **【新規】** 研究期間：平成 26～28 年度
研究課題：伊勢物語絵の体系構築に向けた近世作品の研究
—住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」を中心に
研究分担者：泉 紀子 教授
- **【日本学術振興会】科学研究費 *平成 26 年度申請分**

現代社会学部から2件、人間生活学部から5件の計7件申請しました。

⇒ **7件中1件(小田まり子 准教授)が採択**されました。

○ **【日本学術振興会】科学研究費(研究活動スタート支援) *平成26年度申請分**

現代社会学部から1件、人間生活学部から2件申請したが、ともに**不採択**となりました。

○ **【日本学生支援機構】留学生交流支援制度 (教学C/学生・学修支援G)**

・双方向協定型 「交換留学プログラム」(中国、韓国)

⇒ **1件中1件不採択**

・短期派遣 短期研修・研究型(アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ)

⇒ **5件中5件採択** 補助金申請額60~80千円@学生一人 66名分

・短期受入れ 短期研修・研究型(アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ)

⇒ **1件中1件不採択**

○ **【文部科学省】「教育研究活性化設備整備事業」に係る文部科学省の事業募集**

(総合企画室、教学センター、学術情報センター(図書館))

タイプ1「4号館3階レストランのアクティブラーニング化のための改修」朝活・夕活支援

(100円朝食提供。保護者会、同窓会・美羽会からの運営資金援助あり。)として食堂・カフェテリアを利用した学修時間の増大支援。

補助金申請額10,675千円(事業規模10,990千円)

タイプ2「図書館内に地元自治体や地域住民との交流スペースを拡充のための設備備品整備」

図書館整備

補助金申請額8,926千円(事業規模9,196千円)

タイプ4「グローバル化のための語学教室設備什器等整備」グループワークやICTを利用した

授業展開と、授業外英語自習環境整備(1305教室)

補助金申請額8,783千円(事業規模8,999千円)

⇒ **4件中3件採択** 補助金申請額28,384千円(事業規模29,187千円)

- ・**経常経費補助金(一般補助、特別補助)等**：平成26年度の国の経常経費補助金交付額は、一般補助が276,202,000千円、特別補助は45,141,545千円でした。本学への補助金額の内訳は、平成26年度は、補助金総額が、196,967千円(一般補助131,348千円、特別補助65,619千円)となり、補助金ランキングは、568校中328位となりました。昨年同様、今年度も特別補助の獲得に積極的に取り組み、成長力強化に貢献する質の高い教育で3,497千円、大学等の国際交流の基盤整備への支援で、17,358千円、大型設備等運営資金支援で、1,457千円、大学間連携等による共同研究1,943千円、持続的な大学改革を支える職員育成に係る取組で6,000千円、授業料減免事業支援経費1,440千円、卓越した学生に対する授業料減免等事業833千円、学生の経済的支援体制等の充実に300千円、特色ある経済的支援方法に790千円をそれぞれ獲得しました。

さらに、既述の通り、文部科学省申請補助金である私立大学等改革総合支援事業に今年度も申請したため、補助金とは別に、そのタイプ毎に、特別補助金が増額されました。次年度も今年度同様、申請できるものはすべて申請するという方針で全学一致して申請に取り組みます。

(9) **研究活動について**

・現代社会学部研究紀要関係：

羽衣国際大学現代社会学部研究紀要 第4号（平成27年3月発行）現代社会学会運営委員会編集

<論文>

1. CSR・CSVと大学の地域貢献 吉村 宗隆
2. 長浜市における中心市街地再生と自己組織化モデル
—行政支援と株式会社黒壁を事例に— 中井 郷之
3. 限界計画原価計算に関する研究 森本 和義

<研究ノート>

1. 学業成績不振の背景分析 池田 玲子
2. 原子力・エネルギーも問題と平和憲法 —科学的ヒューマニズムとSTS教育— 岡井 康二
3. 河内狭山池の構造年代と崇神記・垂仁記に現れる背景
—百済碧骨堤（池）や河内依網池・大和磐余池などの造営系譜をたどって— 坪井 恒彦
4. 障害者スポーツの現状と課題 橋本 顕寛
5. 前漢関中地区の環境破壊モデル 安川 俊介

<現代社会学会 学生賞受賞論文及び受賞作品、応募作品(要約)>

1. 「cockroach」(受賞作品) 森芳 理恵(放送・メディア映像学科)

・人間生活学部紀要関係：

羽衣国際大学人間生活学部研究紀要 第10巻（平成27年3月発行）

<論文>

1. 「3.11巨大災害」と市民の生活意識変化に関する考察 岸本 幸臣
2. ベトナムにおける介護事情に関する考察
—仏教寺の介護者と枯葉剤被災者家族への聞き取り調査を通じて— 渋谷 光美

<研究ノート>

1. 霊長類の食性の起源と適応進化 —ヒトの食生活の原風景—
岡井 康二・辻 広志・岡井(東)紀代香
2. 野菜の栽培・収穫・調理・共食を通じた幼児への食育の効果 宇佐見 美佳・眞木 優子
3. 共生社会実現に向けた
「健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業」の現状と課題
片山 千佳・橋本 顕寛

各附置研究所の活動について

・日本文化研究所の活動：

事業名称：日本文化のメカニズムとダイナミズム

目的：文学を核とした日本文化の学際的・国際的研究

平成26年度、日本文化研究所は、上記の事業と目的によって、Aプロジェクト「王朝文学と絵画—伊勢物語絵の研究」とBプロジェクト「東西伝統演劇の融合—劇能の創作と上演」を遂行しました。

1) Aプロジェクト「王朝文学と絵画—伊勢物語絵の研究」

(実地調査)

平成26年5月2日 京都・本願寺、7月29日 和歌山県立博物館、8月6日 東京国立博物館

11月3日 東京・根津美術館

(研究会開催)

平成 26 年 4 月 27 日、6 月 15 日、7 月 21 日、7 月 29 日、9 月 23 日、10 月 13 日、11 月 6 日
平成 27 年 1 月 11 日、3 月 22 日 以上 9 回

(研究内容・目的)

① 住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」(全 5 巻、東京国立博物館所蔵) についての研究

※平成 26 年度 日本学術振興会科学研究費・基盤研究 (C)

② 大学教養教育のための伊勢物語テキスト制作についての検討 (思文閣より出版予定)

(学会報告)

平成 26 年 8 月 28 日 E A J S (ヨーロッパ国際日本学会 於：スロベニア・リュブリアナ大学)

泉 紀子「色紙の中の伊勢物語—宗達伊勢物語図色紙とその継承—」

Tales of Ise in the shikishi formats

—Sotatsu Isemonogatari-zu shikishi and its succession—

2) Bプロジェクト「東西伝統演劇の融合—劇能の創作と上演」

(実地調査)

平成 27 年 3 月 5 日～3 月 6 日 熊本城 (王昭君の間)

(研究会開催)

平成 26 年 4 月 6 日、5 月 4 日、7 月 5 日、8 月 19 日、平成 27 年 3 月 4 日 以上 5 回

(研究内容・目的)

① 『新作能マクベス』出版準備 (平成 27 年 5 月末、和泉書院から出版予定)

② 新作能《オセロ》再演の演出の検討 (平成 27 年 4 月 26 日 美羽会 50 周年記念行事)

③ 新作能《王昭君》創作の準備

(研究公開・講演)

日本演出者協会の演出家・俳優養成セミナー「演劇大学」(主催：文化庁) から依頼を受け、プロジェクトメンバーが下記の講演を行いました。

場所：大阪能楽会館、イロリムラ・プチホール

(ア) 平成 26 年 12 月 2 日 辰巳満次郎「祈りから芸能へ—能の演出の意味を体感する」

(イ) 平成 26 年 12 月 9 日 泉 紀子「新作能《マクベス》創作のプロセス」

(ウ) 平成 26 年 12 月 16 日 中尾 薫「間狂言の可能性—新作能《マクベス》の間狂言を分析する」

3) 羽衣国際大学・能楽鑑賞会

第 32 回能楽鑑賞会を企画し、辰巳満次郎 (本学学術文化顧問、日本文化研究所客員研究員) による能「融」、安東伸元 (本学名誉教授) による狂言「口真似」を上演しました。

日時：平成 26 年 12 月 23 日、 場所：堺能楽会館

・産業経営研究所、国際関係総合研究所の活動：

【研究活動】

2014 年度、産業経営研究所は主に「大学と地域社会」をキーワードに、地域社会との連携と貢献を中心課題として、以下の研究活動 (講演会) を行いました。

(1) 研究発表会 (講演会)

① 第 1 回 平成 26 年 7 月 15 日

テーマ：「メディアと広報 —記者会見の現場から見えてくる危機管理—」

講師： 井手裕彦氏 (読売新聞大阪本社編集委員)

② 第 2 回 平成 27 年 2 月 4 日

テーマ：「宝塚歌劇団 100 年の歴史と人材育成に関する研究」

講師：永岡俊哉氏（羽衣国際大学・准教授）

【所員の個人研究（学会誌発表、学会報告、講演・講座など）】

○吉村宗隆

- ・「CSR・CSV と大学の地域貢献」 羽衣国際大学現代社会学部研究紀要（第 4 号） 羽衣国際大学・現代社会学会（平成 27 年 3 月）

○森本和義

- ・「限界計画原価計算に関する研究」 羽衣国際大学現代社会学部研究紀要（第 4 号） 羽衣国際大学・現代社会学会（平成 27 年 3 月）
- ・「ドイツ原価管理会計と ABC の比較—ドイツ原価理論と ABC 原価モデルとの比較研究—」 大阪経営管理会計研究会第 2 回報告会（阪南大学）（平成 26 年 5 月）
- ・「関空を活用して泉州地域への〈環太平洋〉からの客と荷を増やす！」 「キャリアと社会」講座（南大阪地域大学コンソーシアム単位互換センター科目）平成 26 年 9 月 9 日～11 日

○蔡明哲

- ・「中国における再生可能エネルギーの事情と課題」 『阪南論集』第 50 巻、第 1 号 阪南大学学会（平成 26 年 10 月）
- ・「似て非なる日本と中国—日中生活文化比較—」 羽衣国際大学わかやまサテライト・第 6 回・市民講座（平成 26 年 11 月 11 日）

○池田玲子

- ・「学業成績不振の背景分析」 羽衣国際大学現代社会学部研究紀要（第 4 号） 羽衣国際大学・現代社会学会（平成 27 年 3 月）

・ **高等教育研究所の活動：**

高等教育研究所における大学教育活動の充実推進は、基本的に FD 委員会において協議されています。平成 26 年度は FD 委員会を 9 回開催し、授業アンケート、FD と SD の関係、FD 研修会等について、活発な議論が行われました。授業アンケートについては、学期ごとに中間アンケートを 1 回、期末アンケートを 1 回実施し、この結果は教学委員会へ報告するとともに、各担当教員にフィードバックしました。

また、FD 委員会においては、紙で実施していた授業アンケートを平成 27 年度以降は web 化する方向で協議し、一定の方向性が出ました。

FD 研修会については、中井俊樹・名古屋大学高等教育研究センター准教授（現・愛媛大学教授，愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長）をお招きし、次のとおり実施しました。

日 時	場 所	演 題
平成 26 年 9 月 2 日(火) 午前 10 時 30 分～午後 0 時	1103 教室	アクティブラーニングの方法、道具、環境
平成 27 年 2 月 24 日(火) 午前 10 時 30 分～午後 0 時	1103 教室	アクティブラーニングの実践的方法について

※学生活動の詳細および専任教員の個人研究活動については事業報告の別冊としてまとめる予定です。

以上

1. 事業の概要

平成 26 年度の事業に関しては、男女共学 2 年目を迎え、初年度の影響がどういう形になるかが懸念されました。共学 2 期生は、中学 63 名・高校 455 名で、前年度入学生を中学は 17 名、高校は 85 名増となり、共学 2 期目は減少するというジククスを免れました。男子生徒の割合も、中高とも少しではありますが増加しています。

また、今年度は校舎整備計画 1 年目ということで、新校舎 1 棟建設と中学棟のリニューアル工事を行いました。使用できる教室が制限されるなど、生徒には不便をかけたりましたが、事故もなくほぼ計画通り工事は進んでいます。

2. 主な事業の目的・計画および進捗状況

(1) 教育内容・コースの取り組みなど

従来羽衣学園が大切にしてきた、基本的な生活習慣の確立や、規範意識の定着への指導は大変重要と位置づけ、厳しく指導してきました。最近では、保護者との連携が取りにくく一筋縄ではいかない状況がありますが、粘り強く今後も羽衣の校風として大切に指導していきたいと考えています。

共学校として、新しく作った 3 コースについては、卒業後の進路に向け、より具体的な指導に入りましたが、今年度も予想以上の学力の開きが見られ、今後の課題となっています。

①特進コースについて

i. 中学特進コース

最後の女子校としての特進ですが、クラブ活動・自治会活動も盛んで、最上級生としての存在感を見せてくれました。演劇コンクールや合唱コンクール、修学旅行など、学校行事においてもさすが 3 年生という内容でした。高校へは、そのまま文理特進 I 類への進学をしてもらいたいとコース設定をしましたが、どちらかという II 類への希望が多く、I 類の人数の少なさの原因の一つとなっています。高校 I 類の進学実績を早くあげて、是正を図りたいところです。

ii. 中学文理特進 (I・II) コース

共学 1 期生は、特進のみの設定で、コースの差異はクラス単位とはせず、英・数のみ習熟度別編成としました。上位者に関しては、英検での合格級や合格率などを見ても効果がありましたが、下位者が少し伸び悩んでいるのが課題です。中学 2 年生という難しい時期をどう指導するか、検証を重ねていく必要があります。2 期生は、募集の段階で I コース II コースを分けているので、教科によって習熟度別とはしていません。学年を上がる時に、入れ替えもしながら刺激を与え、活性化していきます。

iii. 高校特進コース

女子校としての最後の特進コースで、国公立大に合格できる上位層が薄く、厳しい戦いを強いられました。志望の多い看護系には例年になく合格者数が出ました。文系は、難関私大への志望が多く、最後まであきらめず指導していきたいと思えます。

iv. 高校文理特進 I 類コース

生徒数 26 名でスタートした高 II は、女子生徒が成績上位でクラスを引っ張っており、トップ層には充分難関国公立大を狙える生徒がいます。センター試験・二次試験と負担の多い理系ですが、こつこつと努力し着実に実力をつけています。男子生徒の伸びが鈍いのが課題です。

高 I は、予定数以上の希望があり 46 名のスタートとなりました。昨年に引き続き理系志望者が多いクラスとなっています。高校での学びにうまく切り替えられた生徒は徐々に自分の学習スタイルを確立でき始めましたが、そうでない生徒は苦戦を強いられています。

放課後には現役大学生を学習サポーターとして配置し、午後七時まで自習対応をしています。特に高 1 が遅くまで残って勉強する生徒が多く、将来が楽しみです。

v. 高校文理特進Ⅱ類コース

高Ⅰは予想以上の希望者で、5クラスのスタートとなりました。昨年の反省を踏まえ、スタート時より、英語の成績を重視したクラス編成にし、上位者をさらに伸ばす体制を組みました。その効果は、学期が進むにつれ出てきています。高Ⅱは3クラスで、理系1クラス・文系上位下位それぞれ1クラスの編成としました。理系クラスでは、指定校を中心に大学進学を目指し、大学進学後でも通用する学力をつけることを目標としています。文系クラスでは、難関大学に合格できる学力の定着を目指し、海外の大学にも進学を勧めます。理系・文系を問わず、海外研修や情報系の検定にも積極的に参加する生徒が多いコースになりました。

② 総合進学コース・進学コースについて

生徒数が一番多い標準的なコースで、クラブ活動や課外活動の活発な生徒の多いコースです。2年生では、四年制大学進学希望者の成績上位者と看護医療系志望者をそれぞれ1クラスに集め、同じ目標を持つ生徒が互いに切磋琢磨できる環境にしました。1年生では、まだまだ将来の志望がはっきりしない生徒が多いので、まずは基本的な生活習慣をしっかり身につけさせ、将来社会で役立つ人材育成を目標に、キャリア教育にも力を入れています。羽衣国際大への進学者の多いコースでもあるので、高大連携の中で羽衣国際大への進学意欲を高める工夫も凝らしました。

③ 教職員の資質向上・生徒による授業評価

生徒数が増えたことで、教員も昨年同様に新採用者が増え、平均年齢も低くなりました。若手教員には研究授業を課し、授業スキルを向上させています。また、若手・ベテランに関係なく、電子教科書・電子黒板など新しい教育機器を使った授業が展開できるよう、研究授業を学期に複数回実施し、その結果プロジェクター設置の教室の稼働率が高くなりました。次年度は工事の済んだ教室からプロジェクターが設置され、一層の利用が期待できそうです。

1学期に、全生徒による全教員の授業評価アンケートを今年度も実施、それを基に校長は全教員と面談を行いました。教員は、査定ではなく、教育力向上のためと前向きに受け止めています。

④ 新しい学校の魅力作りとしての「国際化」と「ICT化」対応

昨年姉妹校となった、台湾高雄市の高校ともう少し交流が深められないかと考え、修学旅行の行先に台湾を加え、次年度約90名で訪問することになりました。また、マレーシアからの来訪があったり、中学では昨年に引き続き韓国の中学生との交流があったり、できるだけたくさんの生徒に機会を与えるという目標は達せられそうです。年度末の3月には、中・高校生で初のカナダバンクーバー語学研修が実施予定で、より積極的に海外経験したい生徒にも対応できるようになりました。

ICT化については、タブレットを配布する学校が増える中、本校では電子辞書で指導しています。辞書機能の他に、用語集や検定対策もあるので、もっと活用の機会を増やしていきたいと思います。ほとんどの家庭にインターネット環境が整った今、家庭学習にICTを利用する方向が見えてきたので、次年度に向けて反転学習などの有効な活用法を探ります。

情報モラルについても、ゲームやIT企業から講師を派遣してもらい、啓発に務めました。

(2) 財政基盤の確立

① 生徒数の確保

昨年の結果を踏まえ、生徒獲得目標数を中学70名高校350名と設定しました。中学は目標に届かず61名の入学でしたが、高校での受験者は昨年より増加した約1,700名、入学者は450名となりました。特に特進文理Ⅱ類コースの人气が高く、2～3クラスの予想が、5クラスになりました。「クラブができる特進系」というコンセプトが人気の秘密のようです。

② 募集活動の充実

共学2年目の結果が出た事から、昨年の募集活動が間違っていなかったと確認できましたが、校舎整備計画により、使用できる教室数に制限がかかったため、生徒を一定数に収めるのに、苦労することになりました。オープンキャンパスでは、校舎内が工事中の場所が多く、落ち着いた教育環境には見えないというハンディもありました。その分、中学訪問や塾訪問など外部での説明で、認知度を高めるように努めました。

(3) 校舎整備計画

2年に渡る校舎整備計画初年度は、安全かつ計画通り順調に工事が進んでいます。中学棟では耐震補強と全教室のリニューアル工事が終了し、工事の済んだ教室では大きなホワイトボードとプロジェクターを使った授業が生徒達には好評です。新校舎の特色であるICTルームは、従来の情報教室とは異なり、多様な使い方ができるようになっています。今後、どのような新しい使い方でどのような教育効果がでるのか、非常に楽しみです。その一方、工事期間中は、一時騒音に悩まされたり、工事車両の動線確保のために、敷地内の通行に制約があったりしましたが、工事関連の会議を密に行い、最低限の支障に留めることができました。一方、古い校舎のため、色々と追加費用が発生、また新たにプール更衣室棟を建設することになり、費用の増加と外構工事期間の延長になりました。

3. 今後の課題

平成25年度に中・高同時に男女共学化を果たし、初年度・二年度と一定の生徒数を確保できました。まずは、共学1期生が卒業するまでを一つの区切りとして、ぶれることなく邁進しなければなりません。

平成27年に向けての課題は、

- ① 校舎整備計画を滞りなく進め、事故なく終わらせる。その間、教育環境に対する影響を最小限にすること。
- ② 共学1期生の進路実績は、今後の募集に多大な影響があるので、最優先課題。四年制大学の合格実績を上げるために必要な運営を行う。

(学校法人部門)

1. 事業の概要

平成 26 年度の主たる事業は、中学の耐震・リニューアル工事及び新校舎建設に関する各種会議・行政折衝、融資折衝業務と会計業務担当者の学内交流と能力アップのための研修会を開催いたしました。また、学校法人羽衣学園を陰で支えて戴いている各種団体への事務支援を行いました。

今後とも法人部門では、各学校部門に対し積極的に日常業務支援を行うとともに、各部門の参画可能な会議等には参加し情報の共有と学園のスムーズな学内連携を図れる環境作りを率先してまいります。

2. 事業計画の実施と推進

(1) 事業計画の実施と展開

平成 26 年度事業計画書に記した事業を意識して業務に取り組みました。大学の過去 3 年間の各勘定科目の支出動向調査や過年度入学生の試験機会や外国人留学生の入学動向比較は新鮮さも感じました。また中高の施設整備事業の資料作成や資金対応では関係団体・企業の支援を受けながらの業務遂行となりました。主な業務内容は下記のとおりです。

- ①耐震工事内容、官庁折衝、補助金申請業務、業者選択のための事業説明会等について中高担当者とともに会議体の一員として事業参画いたしました。
- ②平成 35 年までの財務シミュレーション表を作成いたしました。
- ③第 1 四半期における予算執行状況及び過去 3 年間の比較資料を提示いたしました。
- ④例年通り中間決算を実施しその執行状況及び前年度の比較を説明し共有いたしました。
- ⑤補正予算作成時期を早め、予算順守と経費支出の意識付けを行いました。
- ⑥一部の銀行と交渉により借入金利息の利率が 27 年 4 月から 0.471% 低利となりました。
- ⑦大学経常費補助金申請業務、文科省実績報告書等の書類作成を行いました。
- ⑧学内教職員健康診断業に関し主担となって業者交渉を行いました。
- ⑨夏季期間中の研修会の実施
8 月 7 日 「消費税申告」研修会 講師 阪公認会計士事務所 船城公認会計士
9 月 1 日 「会計基準一部変更に伴う帳票変更」研修会
- ⑩大学の過去 3 年間の所属科別勘定科目ごとの支出額推移表を作成しました。
- ⑪卒業生・関係諸団体に対する寄付金募集の趣意書、その受け口となる郵貯口座を開設及び振込書の作成を行いました。
- ⑫大学・中高のトップ者会議に参加し学内運営の諸課題の共有を図りました。
- ⑬学校法人認定諸団体行事の事務支援を行いました。

3. 学園ガバナンスの強化

(1) 理事会機能の強化

- ①平成 26 年度も、原則月 1 回（議案のない場合は中止）、延べ 10 回、理事会を開催し議案及び学園経営に係る事項の審議・検討を行うとともに、各学校部門との情報共有を図りました。
- ②非常勤理事に対し、理事会審議事項の 1 週間前の資料送付や理事会の事前開催日の公表を行うとともに学園関係者との意見交換会を実施いたしました。

(2) 監事機能の強化

- ①私学法に基づく会計監査に加え財務担当者との交流会を実施しました。
- ②理事会・評議員会には、2 名以上の監事が出席し、理事や評議員の業務監査及び報告事項の確認業

務が行われました。

③5月の公認会計士監査に、同席し問題点等が共有されました。

④京都で開催された文部科学省主催の「監事研修会」には2名の監事に出席いただきました。

(3) 評議員会機能の強化

①平成26年度の評議員会は3回開催いたしました。

②評議員への議案資料の事前送付や当日の各学校部門の報告を詳細に行い情報の共有を図りました

4 財務情報公開への取組

26年度も、平成16年の私学法改正により策定された本学の「財務情報公開規程」に基づきステークホルダーからの申し出に対応するとともに教職員を対象とした財務説明会等を実施いたしました。

①教職員に対する財務説明会開催

教職員に対し本学の財務状況を認識して貰い、学園運営を円滑に進める観点から「平成25年度の収支状況及び全国入学定員別収容状況」研修会を8月26日 中高部門と9月4日 大学部門に分けて実施しました。

③一般公開

学園ホームページに事業報告書と決算概要として財務3表（各学校部門の内訳表を含む）と財産目録を掲載しました。

5 今後の課題

平成25年度からの中学・高等学校の男女共学校への移行は、中学校においては大きな変化はまだ見えていませんが、高校の2年間は予想以上の入学者数となりました。本年実施する高校棟の耐震・リニューアル工事も昨年の中学棟の耐震工事と同様の居ながらの工事となることから、少しでも教育環境への影響を抑えるため27年度入学試験では、受入入学者数を絞らざるを得なくなりましたが、その経緯を近隣の教育関係者に十分理解願えたかは大いに疑問であり、次年度に向けた丁寧な説明が求められます。

外的要因が毎年厳しくなる高等教育界にあつて、小規模大学が安定的に入学生を確保することは非常に困難であることが数々のデータで公表されています。そうであるが故により明確なディプロマポリシーを各学科の担当者や職員が共有し、目指す人材養成に向けたPDCAサイクルの実践は学生の確保やステークホルダーの信頼を得るためにも重要となります。また、大学では各設備の更新時期も到来していることから総合的な施設整備計画も喫緊の課題となっています。新たな事業展開には自己資金が必要であり、その計画的確保に向けた長期財務シミュレーションの作成や施設設備充実に寄与する寄付金募集プロジェクトの設置も重要な課題となっています。

生徒が教室に居ながらの工事を前年度に経験したとはいえ、本年度の高校棟の耐震・リニューアル工事は、工事現場に隣接する住民が多くなるため本学と請負業者が心して対応しなければ今までコツコツと築いてきた信頼関係が危うなるかも知れません。法人と中高の一体となった行動が26年度以上に重要になると考えています。

事務処理においては、学内処理担当者の意思疎通を図り、管理業務の法人事務局集中で管理業務や決算処理等が遅延することのないよう業務の移行を実践することとします。

IV 財務の概要

1 平成26年度 資金収支状況について

(単位 百万円)

科 目	26年度補正予算	26年度決算	差 異
前年度繰越支払資金	646	646	0
当年度 資金収入	3,959	3,968	△ 9
当年度 資金支出	3,942	3,775	167
資金収支過不足	17	193	△ 176
次年度繰越支払資金	663	839	△ 176

- ・ 資金収支計算書は、学校法人会計独特の計算書で単年度の収入要因の数値と支出要因の数値を純額で勘定科目別に示し、且つ期首と期末の繰越支払資金の増減の結果を表した帳票です。
- ・ 本学園の平成26年度の資金収入は、殆どの大科目で補正予算額を超える収入額となりました。特に、学生生徒等納付金収入、補助金収入の勘定科目合計で、補正予算より90百万円増加となり、当期の資金収入総額は補正予算額よりも9百万円多い4,614百万円になりました。
- ・ 資金支出では、教育研究経費支出、借入金等利息支出、学校債返済支出、設備関係支出、資産運用支出、その他の支出返済支出で補正予算額を上回る結果となりました。しかし最大の予算超過額でも、その他の支出の950万円の僅少な超過額でした。これらについては予備費流用で対応しています。

この結果、平成26年度の流動資金の受入額は3,968百万円で、支出額は3,775百万円となり流動資金の過不足は193百万円の超過となり、補正予算の流動資金超過額が17百万円であったことから繰越支払資金は、補正予算額より176百万円多い839百万円になりました。

2 直近4年間の資金収支の推移状況

収 入 の 部

(単位 百万円)

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
学生生徒等納付金収入	1,506	1,468	1,574	1,621
手数料収入	23	45	49	44
寄付金収入	9	24	8	34
補助金収入	456	540	764	1,018
資産運用収入	8	7	7	6
事業収入	12	25	11	10
雑 収 入	100	111	40	68
借入金収入	13	12	19	1,034
前受金収入	228	284	257	254
その他の収入	143	217	231	413
資金調整勘定	△ 363	△ 419	△ 424	△ 534
前年度繰越支払資金	542	511	578	646
収入の部 合計	2,677	2,825	3,115	4,614

支出の部

(単位 百万円)

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
人件費支出	1,335	1,314	1,278	1,397
教育研究経費支出	469	454	500	514
管理経費支出	176	199	194	171
借入金利息支出	14	12	10	10
借入金返済支出	58	98	131	168
施設関係支出	0	46	60	1,354
設備関係支出	46	96	108	79
資産運用支出	79	54	136	109
その他の支出	82	108	140	106
資金支出調整勘定	△ 93	△ 134	△ 87	△ 133
次年度繰越支払資金	511	578	646	839
支出の部 合計	2,677	2,825	3,115	4,614

- ・ 資金収支計算書の収入の部で、学生生徒納付金収入・補助金収入が平成25年度以降増加しています。この要因は中高の男女共学化によるもので教育組織改革が順調に推移していることを示しています。26年度に補助金収入・借入金収入が急激に増加したのは、中高の耐震工事・新棟建設によるものです。
- ・ 資金支出の部では、近年、施設関係支出、設備関係支出がそれまでにない金額の支出になっていますが、これは中高の男女共学化にともなう施設・設備整備環境の充実及び校舎整備の実施によるものと、近年の大学に於ける採択制補助金「私立大学等教育研究活性化設備整備補助金」や大学教育に関連する補助金申請に積極的に応募し獲得したもので教育環境の改善はその結果と云えます。管理経費支出では、消費税の増加や教職員の増加にも関わらず、学園全体での経費削減の取組の結果、過去4年間で最も低い支出となりました。

3 平成26年度 消費収支状況について

(単位 百万円)

科 目	26年度予算	26年度決算	差 異
A 帰属収入	2,704	2,803	△ 99
B 基本金組入額	△ 543	△ 396	△ 146
C 消費収入 (A-B)	2,161	2,407	△ 246
D 消費支出	2,409	2,350	59
当年度消費収支差額 (C - D)	△ 248	57	305
前年度繰越消費支出超過額	4,823	4,823	0
翌年度繰越消費支出超過額	5,071	4,766	305
当年度帰属収支差額 (A - D)	295	453	△ 158

- ・ 消費収支計算は、一般企業で云うところの損益計算にあたるもので、特に消費収支差額は健全且つ永続性が求められる学校法人にとっては、必要不可欠な計算方法であり、重要な数値です。
- ・ 帰属収入は、予算額より99百万円多い28億7百万円になりました。
予算計上と大きな差異が生じたのは学生生徒納付金収入21百万円、補助金収入で70百万円の増加となったことが要因です。
- ・ 帰属収入から基本金組入を控除して算出される消費収入は、総額 24億7百万円となり補正予算額より246百万円の増額となりました。

- ・消費支出は、教育研究経費6百万円、資産処分差額で13百万円、借入金利息で予算超過となりましたが、消費支出の補正予算総額から予備費40百万円を除去した23億69百万円より19百万円少ない23億50百万円になりました。
- ・この結果、当年度の消費収支差額は、57百万円となり、次年度へ繰越すことになる繰越消費支出超過額は、47億66百万円になりました。
- ・当年度帰属収支差額(一般企業でいう損益)は 予算では2億95百万円を予定し、計上していましたが、法人全体で4億53百万円の黒字となりました。

4 直近4年間の消費収支の推移について

収入の部

(単位 百万円)

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
学生生徒等納付金収入	1,506	1,468	1,574	1,621
手数料収入	23	45	49	44
寄付金収入	9	24	9	34
補助金収入	456	540	764	1,018
資産運用収入	8	7	7	6
事業収入	11	11	11	11
雑 収 入	103	112	43	69
帰属収入 合計	2,116	2,207	2,457	2,803
基本金組入額 合計	△ 59	△ 134	△ 268	△ 397
消費収入 合計	2,057	2,073	2,189	2,407

支出の部

(単位 百万円)

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
人 件 費	1,299	1,301	1,280	1,430
教育研究経費	630	610	669	695
管理経費	193	217	213	179
借入金利息	14	12	10	10
資産処分差額	6	13	10	19
徴収不能額(含引当金繰入額)	6	12	13	17
消費支出の部 合計	2,148	2,165	2,194	2,350
消費収支差額	△ 91	△ 92	△ 5	57
帰属収支差額	△ 32	42	263	453

(1) 寄付金の推移

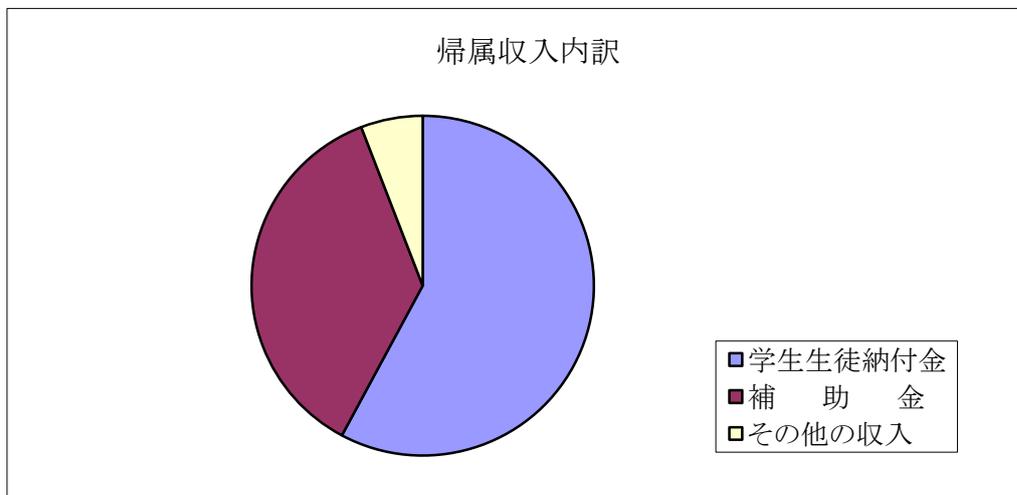
(単位 百万円)

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
特別寄付金	7	24	7	33
一般寄付金	1	1	2	1
現物寄付金	1	0	1	0
寄付金 合計	9	25	9	34
備 考 (大口寄付内容等)	高中PTA 5 大学保護者会 3	高中PTA 4 大学 保護者会 7 大学 美羽会 6	高中PTA 4 大学 保護者会 2	高中PTA 14 大学 保護者会 5

5 消費収支 収入・支出内訳

平成26年度の帰属収入、消費支出における法人全体の主要科目の比率は以下の通りです。

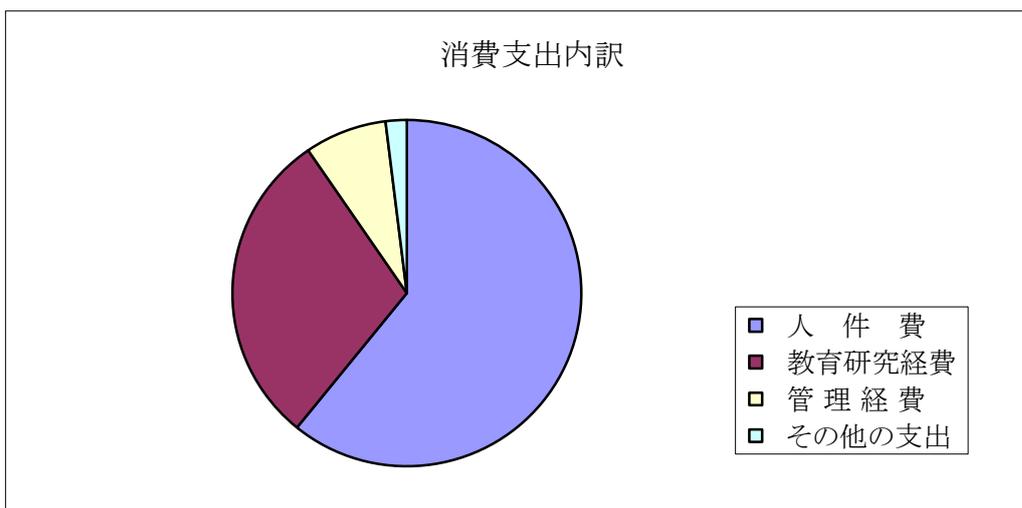
(1) 帰属収入



帰属収入 (単位 百万円 %)

科目	金額	比率
学生生徒納付金	1,621	57.8
補助金	1,018	36.3
その他の収入	164	5.9
合計	2,803	100.0

(2) 消費支出

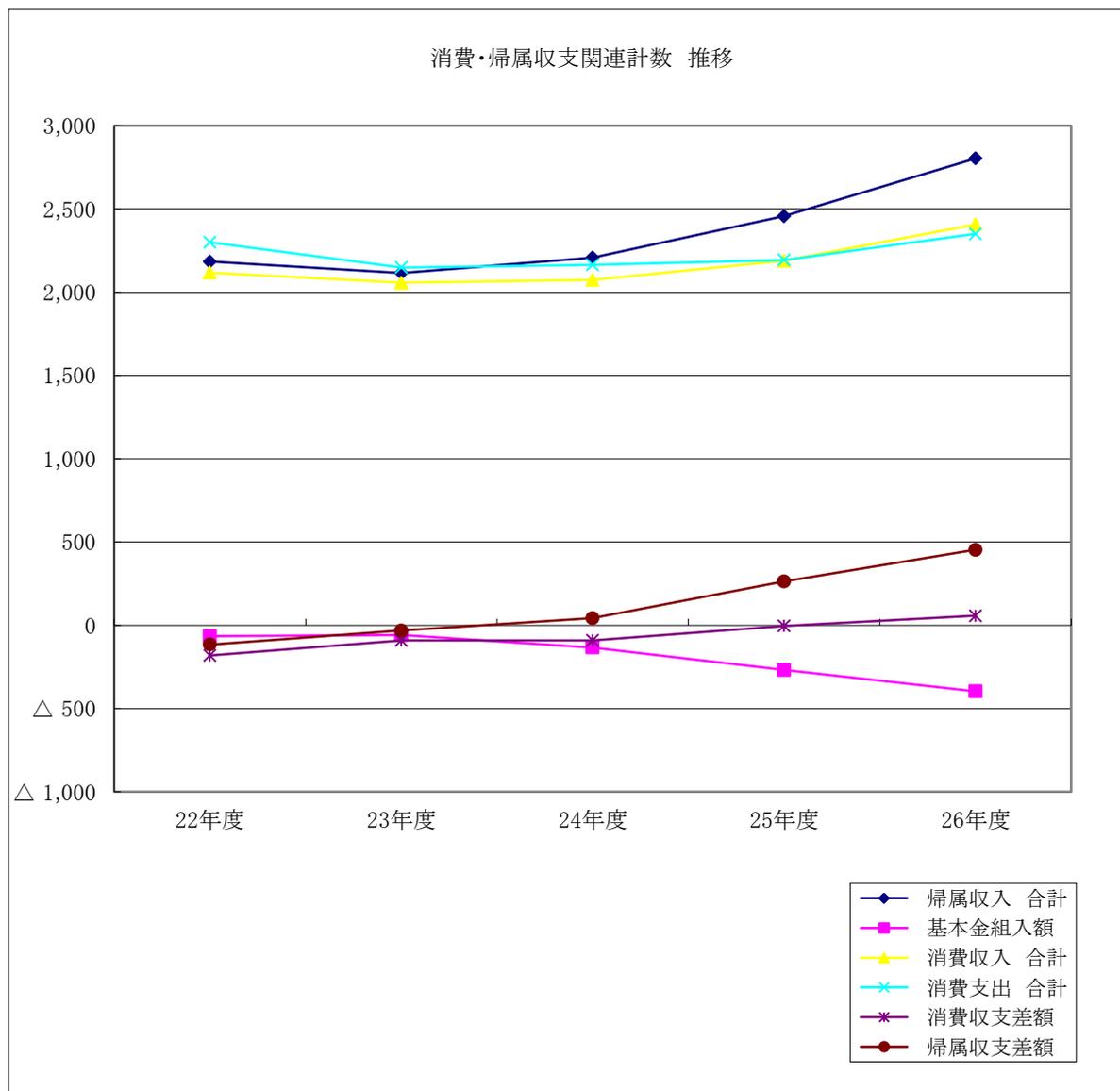


消費支出 (単位 百万円 %)

科目	金額	比率
人件費	1,430	60.9
教育研究経費	695	29.6
管理経費	179	7.6
その他の支出	46	2.0
合計	2,350	100.0

6 消費収支 関連計数推移

過去5年間の消費収支関連計数の推移は下記の通りです。



(単位 百万円)

項 目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
帰属収入 合計	2,184	2,116	2,207	2,457	2,803
基本金組入額	△ 66	△ 59	△ 134	△ 268	△ 397
消費収入 合計	2,118	2,057	2,073	2,189	2,407
消費支出 合計	2,300	2,148	2,165	2,194	2,350
消費収支差額	△ 182	△ 91	△ 92	△ 5	57
帰属収支差額	△ 116	△ 32	42	263	453

7 貸借対照表 計数推移

資産の部

(単位 百万円)

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
固定資産	7,154	7,077	7,148	8,224
有形固定資産	6,756	6,711	6,684	7,900
土地	2,688	2,688	2,688	2,688
建物	3,264	3,188	3,114	4,244
構築物	111	107	117	181
教育研究用備品	286	320	355	361
建設仮勘定				16
図書	372	373	375	377
その他	35	35	35	33
その他の固定資産	398	366	464	324
特定引当預金	377	349	419	313
その他	21	17	45	11
流動資産	653	805	838	1,157
現預金	511	578	646	839
未収入金	100	174	132	256
前払金・その他	42	53	60	62
資産の部合計	7,807	7,882	7,986	9,381

負債・基本金・消費収支差額の部

(単位 百万円)

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
固定負債	1,148	1,029	965	1,836
長期借入金	516	408	344	1,181
学校債	23	23	29	32
長期未払金	16	19	11	9
退職給与引当金	593	579	581	614
流動負債	499	652	557	628
短期借入金	84	108	55	72
学校債	13	11	11	19
前受金	228	284	257	253
預り金	88	113	137	162
未払金・その他	86	136	92	122
負債の部合計	1,647	1,681	1,522	2,465
第1号基本金	10,511	10,644	10,912	11,508
第2号基本金	200	200	200	0
第4号基本金	174	174	174	174
基本金の部合計	10,885	11,018	11,286	11,682
消費収支差額の部合計	△ 4,725	△ 4,817	△ 4,822	△ 4,766
負債の部合計部・基本金の部 および消費収支差額の部 合計	7,807	7,882	7,986	9,381

(1) 貸借対照表 主要増減要因

貸借対照表について、平成26年度における増減の主な要因は以下の通りです。

(単位 百万円)

科 目	増減金額	増 減 の 主 な 要 因	
		要 因	金 額
有形固定資産	1077		
内 土 地	0		
内 建 物	1130	中高記念棟・耐震関係1256、更衣室等△31	1225
内 構 築 物	64	中高記念棟門扉等76、渡り廊下等△13	63
内 教育研究用機器備品	6	大学部門 機器備品取得	54
		中高部門 機器備品取得	21
		除却等	△ 64
内 建設仮勘定	16	中高部門	16
内 図 書	2	図書取得及び寄贈	2
		図書の廃棄	0.4
その他の固定資産	△ 139		
内 退職給与引当特定預金	△ 17	大学退職者資金充当へ繰入	
内 施設整備引当特定預金	△ 200	中高施設関係支出充当	△ 200
流動資産	319		
内 現預金	193		
内 未収金	123	耐震工事関係補助金	146
資産の部 合 計	140		
固定負債	872		
内 長期借入金	837	耐震関係 私学事業団710、市中銀行200	910
内 退職給与引当金	33	退職給与引当金繰入	
流動負債	70		
内 未払金	44	中高耐震関連	64
内 預り金	25	授業料等	
内 短期借入金	18		
負債の部 合 計	942		
基本金の部 合 計	397	建物取得(中高)	251
		建設仮勘定(中高)	16
		構築物取得(中高)	64
消費収支差額の部 合 計	57		
負債、基本金、消費収支差額の部 合 計	1396		

8 主要財務指標推移

主要財務指標の推移は以下の通りです

(単位 %)

項 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
消費収支関連比率				
人件費比率	61.3	58.9	52.1	51.0
人件費依存率	86.2	88.7	81.3	88.2
教育研究経費率	29.8	27.6	27.2	24.8
管理経費比率	9.1	9.8	8.7	6.4
借入金等利息比率	0.7	0.5	0.4	0.4
消費収支比率	101.6	104.1	105.0	97.6
学生生徒等納付金比率	71.2	66.5	64.1	57.8
補助金比率	21.6	24.5	31.1	36.3
基本金組入率	2.8	6.0	10.9	14.1
減価償却費比率	8.4	7.9	8.5	8.4
貸借対照表関連比率				
固定資産構成比率	91.6	89.8	89.5	87.7
流動資産構成比率	8.4	10.2	10.5	12.3
固定負債構成比率	14.7	13.1	12.1	19.6
流動負債構成比率	6.4	8.3	7.0	6.7
自己資金構成比率	78.9	78.7	80.9	73.7
消費収支差額構成比率	△ 60.5	△ 61.1	△ 60.4	△ 51.4
基本金比率	95.2	97.4	98.8	98.8
固定比率	116.2	114.1	114.8	118.9
流動比率	130.6	123.6	150.4	184.1
前受金保有率	224.5	203.2	251.4	330.9
総負債比率	21.1	21.3	19.1	26.3
負債比率	26.7	27.1	23.5	35.6

V 決算期後に生じた重要事項

特にありません

VI 今後の課題

中学及び高等学校の男女共学化は、順調に推移しており、当初の想定以上の入学生を迎え入れるところとなりました。その結果、財務数値も着実な改善を示しています。

当学園の喫緊の課題であった中学・高校校舎の耐震対策工事については、中学棟の耐震工事の完了と新校舎の完成を事故なく迎えることができました。しかし、道路セットバックや更衣室兼部室工事及び高校の耐震リニューアル工事については、26年度の経験を生かし、更なる安全と最小の教育環境への影響に留められるように配慮しつつ27年度も施設整備事業を行います。

18歳人口の減少と大学進学率が減少する厳しい外部環境下であって小規模大学が入学定員を充足することは統計的にも厳しい状況ですが、自己の教育に磨きをかけ、受験者にとって魅力ある教育を行いつつ、新たな教育領域も対象に「あるべき大学の姿」を真摯に検討して参ります。

学校法人羽衣学園の教職員は、常に学園の「建学の精神」「教育の使命」を達成することを念頭に教育活動に邁進し、積極的な情報公開を行い地域に根差した、信頼される学園づくりを推進します。